

**「新潟県放課後児童支援員研修（認定資格研修・資質向上研修）  
及び新潟県子育て支援員研修」  
業務委託仕様書**

## **1 新潟県放課後児童支援員認定資格研修**

### **(1) 目的**

放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）とは、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校就学児童に、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る事業であり、女性就労が増加する中、仕事と子育ての両立支援、児童の健全育成対策として重要な役割を担っている。

平成 27 年度からは「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」（平成 26 年厚生労働省令第 63 号。以下「基準」という。）に基づき放課後児童健全育成事業所ごとに放課後児童支援員（以下「支援員」とする。）を置くこととされ（令和 2 年度から参酌基準化）、支援員は国が示した「放課後児童支援員に係る都道府県認定資格研修ガイドライン」に基づき、都道府県が実施する研修を修了することとされた。

本事業は、基準第 10 条第 3 項のいずれかに該当する者が、放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）に従事する放課後児童支援員として必要な知識・技能を補完するため、業務を遂行する上で必要最低限の知識・技能の習得とそれを実施する際の基本的な考え方や心得を認識してもらうことを目的として実施するものである。

### **(2) 委託期間**

契約の日から令和 9 年 3 月 31 日（水）まで

### **(3) 研修の項目、科目、時間等**

以下の内容に沿った、6 項目 16 科目 24 時間の研修を実施する。

そのうち 4 科目は集合形式で実施すること。

（②、⑬については集合必須。残り 2 科目は受託者にて選定）

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の理解【4.5 時間（90 分×3）】<ol style="list-style-type: none"><li>①放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容</li><li>②放課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護</li><li>③こども家庭福祉施策と放課後児童クラブ</li></ol></li><li>2. こどもを理解するための基礎知識【6.0 時間（90 分×4）】<ol style="list-style-type: none"><li>④こどもの発達理解</li><li>⑤児童期（6 歳～12 歳）の生活と発達</li><li>⑥障害のあるこどもの理解</li><li>⑦特に配慮を必要とするこどもの理解</li></ol></li><li>3. 放課後児童クラブにおけるこどもの育成支援【4.5 時間（90 分×3）】<ol style="list-style-type: none"><li>⑧放課後児童クラブに通うこどもの育成支援</li><li>⑨こどもの遊びの理解と支援</li><li>⑩障害のあるこどもの育成支援</li></ol></li><li>4. 放課後児童クラブにおける保護者・学校・地域との連携・協力【3 時間（90 分×2）】<ol style="list-style-type: none"><li>⑪保護者との連携・協力と相談支援</li><li>⑫学校・地域との連携</li></ol></li></ol> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

5. 放課後児童クラブにおける安全・安心への対応【3時間（90分×2）】
- ⑬こどもの生活面における対応
- ⑭安全対策・緊急時対応
6. 放課後児童支援員として求められる役割・機能【3時間（90分×2）】
- ⑮放課後児童支援員の仕事内容
- ⑯放課後児童クラブの運営管理と運営主体の法令の遵守

※ 詳細は、別紙「放課後児童支援員に係る都道府県認定資格研修の項目・科目、時間数、ねらい、主な内容及び講師要件等」を参照。

#### (4) 開催時期・開催予定地及び定員等

以下の内容に沿って実施する。

○集合形式及びオンデマンド形式の併用型

| 開催予定地                               | 回数             | 定員     | 開催時期                    |
|-------------------------------------|----------------|--------|-------------------------|
| 新潟会場（1日間）<br>長岡会場（1日間）<br>上越会場（1日間） | 1回<br>1回<br>1回 | 300名以上 | 令和8年10月～令和9年1月の間に3回開催   |
| オンデマンド形式                            | —              |        | 受講者に配慮した視聴期間を設けて開催すること。 |

#### (5) 委託業務内容

##### ①研修開催までの業務

ア 研修内容の企画、講師の選定※、確保及び連絡調整

イ 研修会場の手配、受講環境の整備（オンデマンド形式）

ウ 研修開催通知の作成及び市町村への発送

エ 受講申込書（市町村経由）の受付・取りまとめ、受講者の決定及び決定通知の市町村への送付

オ 受講予定者名簿の作成及び県への送付

カ 研修で使用するテキスト、研修レポート等の企画・作成及び機器等の準備

※ 講師については、別紙「放課後児童支援員に係る都道府県認定資格研修の項目・科目、ねらい、主な内容及び講師要件等」の講師要件を参考に、放課後児童クラブ及び児童福祉等研修科目の内容に造詣が深い専門家等で適切に実施・指導できる者とする。

また、集合形式科目の講師については、受託後、県と協議し、県内講師を中心に選定することとする。

※ 研修の教材は、「放課後児童クラブ運営指針」（令和7年1月22日付こ成環第16号こども家庭庁成育局長通知別紙）及び「放課後児童クラブ運営指針解説書」（令和7年3月28日付けこ成環第89号こども家庭庁成育局長通知別紙）の使用を必須とすること。

##### ②研修の運営

ア 会場準備、受講環境の準備（オンデマンド形式）

イ 受講者の受付、本人確認、資料代の徴収

ウ 進行

エ 研修レポート等※の回収

オ 受講者アンケート※の回収

※ 県において修了評価ができるように、レポート又はチェックシートの様式により、1日

単位で受講者に提出させること。

※ アンケート内容は、県に対し事前に協議すること。

③研修終了後の業務

ア 研修レポート等の確認、取りまとめ

イ 受講者アンケートの集計

ウ 受講者の修了評価報告及び修了予定者名簿の県への提出

④研修全科目を実施した後の業務

ア 県が作成した放課後児童支援員認定資格研修修了証の受講者への交付

イ 認定者名簿の作成及び県への提出

⑤事業完了後の業務

研修の実施状況を取りまとめた実績報告書及びアンケート集計結果の提出

## 2 新潟県放課後児童支援員等資質向上研修

### (1) 目的

放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）に従事する放課後児童支援員や補助員等の資質の向上を図ることを目的とする。

### (2) 委託期間

契約の日から令和9年3月31日（水）まで

### (3) 開催時期・開催予定地及び定員等

以下の内容に沿って実施する。

| 開催予定地    | 定員                                                                        | 開催時期及び回数              |
|----------|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| オンデマンド形式 | 600名以上<br><br>※2テーマで、各300名以上を想定<br>※「発達障害児など配慮を必要とするこどもへの支援」、「保護者との連携と支援」 | 受講者に配慮した期間を設けて開催すること。 |

### (4) 研修の項目、科目数、時間等

放課後児童クラブの運営やこどもの育成支援に関する事項について、専門的な知識・技術が求められるもので、下記の2科目を実施すること。

①発達障害児など配慮を必要とするこどもへの支援

②保護者との連携と支援

※1科目あたりの研修時間は3～4時間を目安とする。

### (5) 委託業務内容

#### ①研修開催までの業務

ア 研修内容の企画、講師の選定、確保及び連絡調整

イ 受講環境の整備

ウ 研修開催通知の作成及び市町村への発送

エ 受講申込書（市町村経由）の受付・取りまとめ、受講者の決定及び決定通知の市町村への

送付

オ 受講予定者名簿の作成及び県への送付

カ 研修で使用するテキスト、研修レポート等の企画・作成及び機器等の準備

②研修の運営

ア 受講環境の準備

イ 受講者の受付、本人確認、資料代の徴収

ウ 進行

エ 研修レポートの回収

オ 受講者アンケートの回収

※ レポート・アンケート内容は県に対し事前に協議すること。

③研修終了後の業務

ア 研修レポート等の確認、取りまとめ

イ 受講者アンケートの集計

ウ 受講者名簿の県への提出

④事業完了後の業務

研修の実施状況を取りまとめた実績報告書及びアンケート集計結果の提出

### 3 新潟県子育て支援員研修

(1) 目的

子ども・子育て支援法に基づく給付又は事業として実施される小規模保育事業などにおいて、支援の担い手となる子育て支援員を養成するための研修を実施する。

(2) 委託期間

契約の日から令和9年3月31日（水）まで

(3) 研修の項目、科目数、時間等

こども家庭庁の「子育て支援員研修事業実施要綱」に基づき、以下の内容に沿った研修を実施する。

ア 基本研修（8科目8時間）

子育て支援員として必要とされる子育て支援に関する基礎的な知識等を修得させ、子育て支援員としての役割や子どもへの関わり方を理解するとともに、子育て支援員としての自覚を持たせることを目的とする。

イ 専門研修（地域保育コース：地域型保育・一時預かり事業・こども誰でも通園制度）

基本研修を修了した者が、家庭的保育事業、小規模保育事業、事業所内保育事業、一時預かり事業、企業主導型保育事業及び乳児等通園支援事業に子育て支援員として従事するために必要な専門的な知識等を修得させることを目的とする。

（ア）共通科目（12科目15時間）

うち「心肺蘇生法」、「グループ討議」は集合形式で実施すること。

(イ) 選択科目

- a 地域型保育 (5科目6時間+見学実習2日間)
- b 一時預かり事業 (5科目6時間+見学実習2日間)
- c こども誰でも通園制度 (5科目6時間+見学実習2日間)

ウ 補講研修

各研修をやむを得ず欠席した者に対しビデオによる補講研修を実施する。

※ 詳細は、別紙「子育て支援員研修シラバス」を参照

(4) 開催時期・開催予定地及び定員等

以下の内容に沿って実施する。

○集合形式及びオンデマンド形式の併用型

| 開催予定地      | 定員                                                                 | 開催時期及び回数                    |
|------------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 新潟県内 (1日間) | 150名程度<br>※基本研修150名、専門研修<br>(地域型保育100名、<br>一時預かり30名、<br>こども誰でも20名) | 令和8年10月～令和9年1月の間に<br>1回開催   |
| オンデマンド形式   |                                                                    | 受講者に配慮した視聴期間を設けて<br>開催すること。 |

(5) 委託業務内容

① 研修開催までの業務

- ア 研修内容の企画、講師の選定※、確保及び連絡調整
  - イ 研修会場の手配、受講環境の整備 (オンデマンド形式)
  - ウ 研修開催通知の作成及び市町村への発送
  - エ 受講申込書 (市町村経由) の受付・取りまとめ、受講者の決定及び決定通知の送付
  - オ 受講予定者名簿の作成及び県への送付
  - カ 研修で使用するテキスト、研修レポート等の企画・作成及び機器等の準備
- ※ 職歴、資格、実務経験、学歴等に照らして選定し、各科目の研修を適切に実施するために必要な体制を確保すること。

② 研修の運営

- ア 会場準備、受講環境の準備 (オンデマンド形式)
  - イ 受講者の受付、本人確認、資料代の徴収
  - ウ 進行
  - エ 研修レポート等の回収
  - オ 見学実習証明書の回収
  - カ 受講者アンケート※の回収
- ※ アンケート内容は、県に対し事前に協議すること。

③ 研修終了後の業務

- ア 研修レポート等の確認、修了証の送付
- イ 受講者アンケートの集計
- ウ 認定者名簿の作成及び県への提出

④ 事業完了後の業務

研修の実施状況をとりまとめた実績報告書及びアンケート集計結果の提出

## 4 その他

- (1) 受託者は契約締結後、速やかに研修計画を作成し、県に提出することとする。
- (2) 業務遂行にあたっては、県と密接な連携を取りつつ作業を進めることとし、随時定期的にその業務状況を報告することとする。
- (3) 受講希望者数が定員を上回る場合は、県に相談の上、受講者を決定すること。
- (4) 受託者は、業務中に知り得た個人情報等を第三者に知らしめてはならない。
- (5) 研修に用いるテキストや配布資料等の教材は、受講者から実費徴収する。
- (6) 見学実習受入施設に対する謝金は、委託費には含めない。
- (7) 見学実習及び補講研修については、必ずしも講師の配置は求めない。
- (8) 見学実習は実習と同程度の内容を担保した講義・演習等による代替措置も可能とする。
- (9) その他、研修業務の実施に必要な打合わせは県と受託者とで適宜行うこととする。
- (10) 受講者の利便性に配慮した会場を選定すること。
- (11) 集合形式で実施する科目については、悪天候等のやむを得ない事情により受講者が研修を受講できない場合に代替措置を講ずること。
- (12) 各研修を実施する上で重複する事務については効率的に行い、費用の縮減に努めること。
- (13) 放課後児童支援員認定資格研修及び子育て支援員研修で使用するテキスト等を作成するにあたっては、こども家庭庁のホームページに掲載されている資料・映像教材を活用することができる。

※ こども家庭庁ホームページ URL

・ 放課後児童支援員認定資格研修

<https://www.cfa.go.jp/policies/kosodateshien/houkago-jidou/koushi-eizou>

・ 子育て支援員研修

<https://www.cfa.go.jp/policies/kosodateshien/kosodateshien-kyozai>

・ こども誰でも通園制度の研修について

<https://www.cfa.go.jp/policies/hoiku/daredemo-tsuen/kenshu>

- (14) オンライン研修（サテライト方式）の導入に際しては、「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業『子育て支援員研修及び放課後児童支援員認定資格研修における研修の開催及び受講の促進等に関する調査研究』」の事業実施主体（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社）が作成した報告書を参照の上、認定資格研修の趣旨を損なわないようにすること。

※事業実施主体ホームページ URL：

[https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai\\_210412\\_2.pdf](https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_2.pdf)

## 別 紙

### 放課後児童支援員に係る都道府県等認定資格研修の 項目・科目、時間数、ねらい、主な内容及び講師要件等

【研修項目・科目と研修時間数（16科目 24時間〈90分×16〉）】

- 1 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の理解（4.5時間・90分×3）
  - ① 放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容
  - ② 放課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護
  - ③ こども家庭福祉施策と放課後児童クラブ
- 2 こどもを理解するための基礎知識（6.0時間・90分×4）
  - ④ こどもの発達理解
  - ⑤ 児童期（6歳～12歳）の生活と発達
  - ⑥ 障害のあるこどもの理解
  - ⑦ 特に配慮を必要とするこどもの理解
- 3 放課後児童クラブにおけるこどもの育成支援（4.5時間・90分×3）
  - ⑧ 放課後児童クラブに通うこどもの育成支援
  - ⑨ こどもの遊びの理解と支援
  - ⑩ 障害のあるこどもの育成支援
- 4 放課後児童クラブにおける保護者・学校・地域との連携・協力（3時間・90分×2）
  - ⑪ 保護者との連携・協力と相談支援
  - ⑫ 学校・地域との連携
- 5 放課後児童クラブにおける安全・安心への対応（3時間・90分×2）
  - ⑬ こどもの生活面における対応
  - ⑭ 安全対策・緊急時対応
- 6 放課後児童支援員として求められる役割・機能（3時間・90分×2）
  - ⑮ 放課後児童支援員の仕事内容
  - ⑯ 放課後児童クラブの運営管理と運営主体の法令の遵守

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 1 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 科目名  | 1－① 放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ねらい  | <p>○放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の目的について理解している。</p> <p>○放課後児童健全育成事業の役割について理解している。</p> <p>○放課後児童健全育成事業に関する法律、政省令及び通知等について理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ポイント | <p>○主に、児童福祉法第6条の3第2項、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準第5条第1項、放課後児童クラブ運営指針第1章の2及び放課後児童支援員認定資格研修事業（都道府県等認定資格研修ガイドライン）の内容に基づいて学び、放課後児童健全育成事業の目的、役割及び制度の内容について理解を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 主な内容 | <p>○放課後児童健全育成事業の目的及び役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉法及び放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準における放課後児童健全育成事業の目的</li> <li>・放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準及び放課後児童クラブ運営指針における放課後児童健全育成事業の役割</li> </ul> <p>○放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準と市町村が定める設備及び運営に関する基準条例の役割</li> <li>・放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の構成と事業運営に関する基本的な事項</li> </ul> <p>○放課後児童クラブ運営指針の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブ運営指針の役割</li> <li>・放課後児童クラブ運営指針の構成と主な内容</li> </ul> <p>○放課後児童支援員認定資格研修事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童支援員認定資格制度の目的</li> <li>・放課後児童支援員認定資格研修事業の主な内容</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 放課後児童健全育成事業の事務を担当している行政担当職員</p> <p>イ 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 備考   | <p>○各都道府県・市域の放課後児童健全育成事業の状況を理解することも重要なため、講師は放課後児童健全育成事業の事務を担当する行政担当職員と連携し、教授内容を検討すること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 1 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 科目名  | 1－② 放課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ねらい  | <p>○放課後児童健全育成事業の一般原則について理解している。</p> <p>○放課後児童クラブにおける権利擁護及び法令遵守の基本について理解している。</p> <p>○こどもの権利についての基礎を学んでいる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ポイント | <p>○主に、児童福祉法第 33 条の 10、第 33 条の 11 及び第 33 条の 12、こども基本法第 3 条、児童の権利に関する条約、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準第 5 条、第 12 条、第 14 条、第 16 条、第 17 条及び第 19 条、放課後児童クラブ運営指針第 1 章の 3（4）の内容に基づいて学び、放課後児童健全育成事業の一般原則及び権利擁護、法令遵守の基本とこどもの権利について理解を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 主な内容 | <p>○放課後児童健全育成事業の一般原則の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準における放課後児童健全育成事業の一般原則の内容</li> <li>・放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準における権利擁護及び法令遵守の内容</li> </ul> <p>○放課後児童クラブの社会的責任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準における放課後児童クラブの社会的責任の内容</li> <li>・こどもの人権に配慮し、一人ひとりの人格を尊重して運営を行うことの大切さ</li> </ul> <p>○放課後児童クラブにおけるこどもへの虐待等の禁止と予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもへの虐待等の禁止と予防の理解</li> <li>・こどもの「心身に有害な影響を及ぼす行為」の具体的内容</li> </ul> <p>○こどもの権利に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの権利の基礎的理解</li> <li>・放課後児童支援員が必要とするこどもの権利に関する法令等</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等</p> <p>イ 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 1 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 科目名  | 1－③ こども家庭福祉施策と放課後児童クラブ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ねらい  | <p>○こども家庭福祉の理念と施策の概要を学んでいる。</p> <p>○放課後児童クラブと関連するこども家庭福祉施策の内容を学んでいる。</p> <p>○放課後児童クラブと関連する放課後関係施策を理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ポイント | <p>○主に、児童福祉法、子ども・子育て支援法、障害者総合支援法、児童虐待の防止等に関する法律及び放課後児童対策に関する通知等の内容に基づいて学び、こども家庭福祉施策の概要を理解し、放課後児童健全育成事業との関連について理解を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 主な内容 | <p>○こども家庭福祉の理念と施策と子ども・子育て支援新制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども家庭福祉の理念</li> <li>・こども家庭福祉施策の体系と内容</li> <li>・子ども・子育て支援新制度の内容</li> </ul> <p>○障害児福祉施策の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の障害児福祉施策の内容</li> <li>・放課後児童クラブと障害児福祉施策との関連</li> </ul> <p>○児童虐待防止等の施策の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童虐待の内容と児童虐待防止等に関する施策の内容</li> <li>・社会的養護に関する施策の概要</li> </ul> <p>○放課後児童クラブと関連する放課後関係施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブと放課後関係施策との関連</li> <li>・放課後児童クラブと直接関わる放課後関係施策（児童館、放課後子供教室、放課後等デイサービス等）の内容</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 2 こどもを理解するための基礎知識                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 科目名  | 2－④ こどもの発達理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ねらい  | <p>○こどもの発達を理解するための基礎を学んでいる。</p> <p>○育成支援におけるこどもの発達の特徴や発達過程を理解している。</p> <p>○こどもの発達理解のための継続的な学習の必要性を理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ポイント | <p>○主に、育成支援に必要なこどもの発達理解に関する基礎的な事項について学び、こどもの発達理解について継続的な学習が必要であることの理解を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 主な内容 | <p>○こどもの発達理解の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の概念</li> <li>・発達の時期区分と特徴</li> </ul> <p>○こどもの遊びや生活と発達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの社会性の発達の理解</li> <li>・こどもの発達における遊びの大切さ</li> </ul> <p>○こどもの発達理解と育成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の個人差を踏まえて一人ひとりの心身の状態を把握しながら育成支援を行うことの大切さ</li> <li>・こどもの発達過程における放課後児童支援員の存在の意味</li> </ul> <p>○継続的な学習の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの理解を深めるために、こどもの発達について継続的に学習することの必要性</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 2 こどもを理解するための基礎知識                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 科目名  | 2－⑤ 児童期（6歳～12歳）の生活と発達                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 時間数  | 1.5時間（90分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ねらい  | <p>○児童期の一般的な特徴を学んでいる。</p> <p>○児童期の発達過程と発達領域の基礎を学んでいる。</p> <p>○児童期の発達理解のための継続的な学習の必要性を理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童クラブ運営指針第2章1、2及び3の内容に基づいて児童期の発達理解に関する基礎的な事項を学び、理解を深めるために継続的に学習することの大切さを理解する必要があることへの気づきを促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 主な内容 | <p>○こどもの発達と児童期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの発達から見た児童期の位置（幼児期、思春期・青年期との関わり等）</li> <li>・児童期の発達の特徴</li> </ul> <p>○児童期の発達過程と発達領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね6歳～8歳頃の発達の特徴</li> <li>・おおむね9歳～10歳頃の発達の特徴</li> <li>・おおむね11歳～12歳頃の発達の特徴</li> </ul> <p>○継続的な学習の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童期の発達理解を深めるために継続的に学習することの必要性</li> <li>・事例検討から学ぶことの大切さ</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 2 こどもを理解するための基礎知識                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 科目名  | 2－⑥ 障害のあるこどもの理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ねらい  | <p>○障害のあるこどもを理解するための基礎を学んでいる。</p> <p>○障害のあるこどもの保護者と連携するために必要なことを学んでいる。</p> <p>○障害のあるこどもと保護者を理解するための継続的な学習の必要性を理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| ポイント | <p>○主に、児童福祉法第4条及び第6条の2の2、障害者基本法（障害者の権利に関する条約などを含む）、発達障害者支援法（発達障害に関する最近の研究動向などを含む）等の内容に基づいて学び、障害のあるこどもや保護者の理解及び障害のあるこどもの福祉に関する基礎と学習課題について理解を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 主な内容 | <p>○こどもの障害についての基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の概念</li> <li>・ 障害のあるこどもの発達の特徴</li> </ul> <p>○発達障害についての基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達障害の定義と障害特性</li> <li>・ 発達障害理解の基礎</li> </ul> <p>○障害のあるこどもの保護者を理解するための基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のあるこどもの保護者の気持ちを受け止めることの大切さ</li> <li>・ 障害のあるこどもの保護者との連携に当たって配慮すること</li> </ul> <p>○障害のあるこどもと保護者を理解するための学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のあるこどもに関する専門機関等との連携の必要性</li> <li>・ 障害のあるこどもと保護者の理解を深めるために継続的に学習することの必要性及び事例検討から学ぶことの大切さ</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p> <p>イ 養護教諭</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 2 こどもを理解するための基礎知識                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 科目名  | 2－⑦ 特に配慮を必要とするこどもの理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ねらい  | <p>○児童虐待の現状と対応についての基礎を学んでいる。</p> <p>○特に配慮を必要とするこどものいる家庭の状況について理解している。</p> <p>○特に配慮を必要とするこどもについて、関連する事業と連携、協力して支援する必要があることについて理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ポイント | <p>○主に、児童虐待の防止等に関する法律、こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律、こども大綱、要保護児童対策地域協議会設置・運営指針などの内容に基づいて学び、児童虐待及び特に配慮を必要とするこどもの現状と対応、支援のあり方について理解を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 主な内容 | <p>○児童虐待の内容と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童虐待の現状と内容</li> <li>・児童虐待の早期発見と早期対応の必要性</li> </ul> <p>○特に配慮を必要とするこどもの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの養育に困難を抱えている家庭の現状と課題</li> <li>・ひとり親家庭への子育てと生活支援の施策</li> </ul> <p>○特に配慮を必要とするこどもの支援についての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に配慮を必要とするこどもの家庭からの相談への配慮のあり方の理解</li> <li>・特に配慮を必要とするこどもに関する学校との連携についての理解</li> </ul> <p>○要保護児童対策地域協議会と放課後児童クラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要保護児童対策地域協議会の目的及び役割</li> <li>・要保護児童対策地域協議会と放課後児童クラブの関わり</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p> <p>イ 児童相談所長又は児童相談所において相談・指導業務に5年以上従事している児童福祉司</p> <p>ウ 乳児院又は児童養護施設の長</p> <p>エ こども家庭ソーシャルワーカー認定資格を有している者</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 3 放課後児童クラブにおけるこどもの育成支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 科目名  | 3－⑧ 放課後児童クラブに通うこどもの育成支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ねらい  | <p>○放課後児童クラブにおける育成支援の内容を理解している。</p> <p>○こどもの視点からみた育成支援のあり方について理解している。</p> <p>○育成支援の記録と職場内での事例検討の必要性について理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童クラブ運営指針第1章3（1）、（2）、第2章及び第3章の内容に基づいて学び、放課後児童クラブにおいて、こどもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるように、自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等を図るための育成支援の具体的な内容の理解を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 主な内容 | <p>○放課後児童クラブにおける育成支援の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブ運営指針における育成支援の基本的な考え方</li> <li>・こどもの発達過程を踏まえた育成支援の配慮事項</li> </ul> <p>○育成支援の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブ運営指針における育成支援の主な内容</li> <li>・育成支援における特に配慮を必要とするこどもへの対応</li> </ul> <p>○育成支援における記録及び職場内での事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育成支援における記録の必要性</li> <li>・職場内での情報共有と事例検討の必要性</li> </ul> |
| 講師要件 | ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 3 放課後児童クラブにおけるこどもの育成支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 科目名  | 3－⑨ こどもの遊びの理解と支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ねらい  | <p>○こどもの生活における遊びの大切さについて理解している。</p> <p>○こどもが発達段階に応じた主体的な遊びを行うことの大切さを理解している。</p> <p>○こどもの遊びへの放課後児童支援員の対応のあり方を理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童クラブ運営指針第2章4、5及び第3章1の内容に基づいて学び、こどもの生活における遊びの大切さ及びこどもの遊びへの対応のあり方について理解を促す。また、講義に際して、「2－④」及び「2－⑤」の科目内容を活用することが望ましい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 主な内容 | <p>○こどもの遊びと発達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの生活における遊びの大切さ</li> <li>・児童期の遊びの特徴と発達との関わり</li> </ul> <p>○こどもの遊びと仲間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもが自発的に遊びをつくり出すことの理解</li> <li>・遊びの中でこども同士の仲間関係を育てることの必要性</li> </ul> <p>○こどもの遊びと環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びにはこどもが安心できる環境が必要であることの理解</li> <li>・自分で遊びを選択し創造することができるように環境を整えることの大切さ</li> </ul> <p>○こどもの遊びと放課後児童支援員の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの発達や状況に応じた柔軟な関わりの必要性</li> <li>・遊びの中でのこども同士の関わりを大切にして育成支援を行うことの必要性</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等</p> <p>イ 児童厚生施設（児童館）の長又は児童厚生施設（児童館）に5年以上従事している児童の遊びを指導する者</p> <p>ウ 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 備考   | <p>○遊びの技術を教授する実技科目ではないことに留意すること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 3 放課後児童クラブにおけるこどもの育成支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 科目名  | 3－⑩ 障害のあるこどもの育成支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ねらい  | <p>○障害のあるこども（医療的ケアを必要とするこどもを含む。以下同じ。）の育成支援のあり方について理解している。</p> <p>○障害のあるこどもの保護者との連携のあり方について理解している。</p> <p>○専門機関等との連携のあり方について理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童クラブ運営指針第3章2、4（2）及び（3）などの内容に基づいて学び、こども同士が生活を通して共に成長できるように、障害のあるこどもの育成支援のあり方や保護者との連携のあり方などについて理解を促す。また、講義に際して、「2－⑥」の科目内容を活用することが望ましい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 主な内容 | <p>○障害のあるこどもの育成支援と合理的配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のあるこどもの受入れの考え方</li> <li>・障害のあるこどもの育成支援に際して留意すること</li> </ul> <p>○障害のあるこどもの保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の状況の把握と、保護者のこどもへの気持ちを理解することの大切さ</li> <li>・こどもの様子を丁寧に伝え、保護者と一緒に放課後児童クラブでのこどもの生活の見通しをつくることの必要性</li> </ul> <p>○障害のあるこどもの育成支援における倫理的配慮と職員間の共通理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のあるこどもの育成支援における倫理的配慮の必要性</li> <li>・障害のあるこどもの理解と育成支援のあり方を職員間で共有することの大切さ</li> </ul> <p>○専門機関等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後等デイサービス、児童発達支援センター等の専門機関等と連携して育成支援の見通しを持つことの大切さ</li> <li>・専門機関等と連携する際の配慮事項</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等</p> <p>イ 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 4 放課後児童クラブにおける保護者・学校・地域との連携・協力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 科目名  | 4－⑪ 保護者との連携・協力と相談支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ねらい  | <p>○保護者との連携のあり方について理解している。</p> <p>○保護者組織との連携のあり方について理解している。</p> <p>○保護者からの相談への対応のあり方を学んでいる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準第 19 条、放課後児童クラブ運営指針第 1 章 3（2）、第 3 章 1（5）⑨及び 4 の内容に基づいて学び、保護者や保護者組織との連携のあり方や保護者からの相談への対応に当たって配慮することなどの理解を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 主な内容 | <p>○保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と密接な連絡をとり、育成支援の内容を伝えて理解を得ることの必要性</li> <li>・保護者への連絡の際に配慮すること</li> </ul> <p>○保護者組織との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父母の会等の保護者組織との協力関係をつくることの必要性</li> <li>・保護者同士が交流し協力して子育てが進められるように支援することの必要性</li> </ul> <p>○保護者からの相談への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との信頼関係に基づいて、保護者からの相談に応じられるような関係を築くことの必要性</li> <li>・保護者からの相談への対応に当たって配慮すること</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等</p> <p>イ 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 4 放課後児童クラブにおける保護者・学校・地域との連携・協力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 科目名  | 4－⑫ 学校・地域との連携                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ねらい  | <p>○学校等との連携の必要性とそのあり方について理解している。</p> <p>○保育所、認定こども園、幼稚園等との連携の必要性とそのあり方について理解している。</p> <p>○地域との連携の必要性とそのあり方について理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準第 5 条第 3 項及び第 20 条、放課後児童クラブ運営指針第 5 章の内容に基づいて学び、学校や保育所、認定こども園、幼稚園及び地域住民や関係機関等地域との連携のあり方や連携に当たって考慮すべきことなどの理解を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 主な内容 | <p>1. 学校等との連携</p> <p>○こどもの生活の連続性を配慮した学校との連携の必要性</p> <p>○学校との情報交換や情報共有を日常的、定期的に行う際に考慮すること</p> <p>○放課後子供教室等との連携</p> <p>2. 保育所、認定こども園、幼稚園等との連携</p> <p>○こどもの発達の連続性を配慮した保育所、認定こども園、幼稚園等との連携の必要性</p> <p>○こどもの状況について保育所、認定こども園、幼稚園等と情報交換や情報共有を行う際に考慮すること</p> <p>3. 地域住民や関係機関等との連携</p> <p>○こどもの成長、発達にとって地域が果たす役割と地域の関係者、関係機関との連携の必要性</p> <p>○こどもに関わる地域住民や福祉、保健及び医療等関係機関等との連携</p> <p>4. 学校、児童館を活用して実施する放課後児童クラブ</p> <p>○学校施設を活用して実施する放課後児童クラブの運営</p> <p>○児童館を活用して実施する放課後児童クラブの運営</p> |
| 講師要件 | <p>ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等</p> <p>イ 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 備考   | <p>○放課後子供教室等地域学校協働活動については、教育委員会担当者と連携して教授内容を検討すること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 5 放課後児童クラブにおける安全・安心への対応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 科目名  | 5－⑬ こどもの生活面における対応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ねらい  | <p>○こどもの健康管理及び情緒の安定を確保することの必要性とそのあり方を理解している。</p> <p>○こどもの健康維持のための衛生管理について理解している。</p> <p>○食物アレルギー等への対応に関する必要な知識を学んでいる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準第 13 条、放課後児童クラブ運営指針第 3 章 1（5）⑦、第 6 章 1（2）及び 2（1）の内容に基づいて学び、こどもの健康管理、情緒の安定及び確保のあり方と食物アレルギー等への対応について理解を促す。なお、その際、「こどもの施設における衛生管理と衛生指導の知識」及び「食物アレルギーと救急対応の知識」については、その分野における関連資料を活用して行うことが望ましい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 主な内容 | <p>○こどもの健康管理及び情緒の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認及び来所時の健康状態や心身の状況の観察の必要性</li> <li>・こどもの状態の把握と安定した情緒で過ごせるようにするための配慮</li> </ul> <p>○こどもの健康管理に関する保護者との連絡や学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とのこどもの健康状態等に関する情報の共有と緊急時の連絡の必要性</li> <li>・学校とのこどもの健康状態や心身の状況に配慮が必要な際の連絡や連携</li> </ul> <p>○衛生管理と衛生指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設及び設備の衛生管理と、遊びや活動の内容を考慮した衛生指導</li> <li>・おやつ提供時の衛生管理と衛生指導</li> </ul> <p>○食物アレルギーのあるこども等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーのあるこどもの保護者からの情報提供の確認及び放課後児童クラブでの対応</li> <li>・救急時（アナフィラキシー、誤嚥事故等）対応の知識</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等</p> <p>イ 養護教諭</p> <p>ウ 従事期間が 5 年以上の栄養士又は管理栄養士</p> <p>エ 医師</p> <p>オ 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 5 放課後児童クラブにおける安全・安心への対応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 科目名  | 5－⑭ 安全対策・緊急時対応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ねらい  | <p>○安全対策及び緊急時対応のあり方について理解している。</p> <p>○安全対策及び緊急時対応についての具体的な取り組みの内容について理解している。</p> <p>○安全対策及び緊急時対応を行う際に知っておくべき法令等について理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準第5条第5項、第6条、第6条の2、第6条の3、第12条の2、第13条及び第21条、放課後児童クラブ運営指針第3章1（5）⑧、第6章2（2）、（3）及び（4）の内容に基づいて学び、放課後児童クラブにおける非常災害対策や緊急時、事故発生時の対応などについて理解を促す。その際、市町村の安全対策及び緊急時対応の実例を活用して行うことが望ましい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 主な内容 | <p>○放課後児童クラブにおけるこどもの安全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育成支援の際に求められるこどもの安全の考え方</li> <li>・安全対策及び緊急時対応における計画策定の必要性</li> </ul> <p>○安全対策及び緊急時対応の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故やけがの防止と発生時の対応</li> <li>・災害等の発生に備えた具体的な計画や防災や防犯に関する訓練の内容、感染症発生時の対応、来所及び帰宅時の安全確保等の内容</li> </ul> <p>○安全対策及び緊急時対応の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全対策及び緊急時対応について保護者と情報を共有しておくことの必要性</li> <li>・計画に基づく保護者や関係機関等との連携及び協力や定期的な訓練の実施の必要性</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等</p> <p>イ 児童厚生施設（児童館）の長又は児童厚生施設（児童館）に5年以上従事している児童の遊びを指導する者</p> <p>ウ 当該科目あるいは類似科目を現に教授している指定保育士養成施設、地方厚生局長等の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校その他の養成施設又は福祉系大学等の教員</p>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 備考   | <p>○近年の放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の改正や、放課後児童クラブ等における重大事故を踏まえた内容を教授すること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 6 放課後児童支援員として求められる役割・機能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 科目名  | 6－⑮ 放課後児童支援員の仕事内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ねらい  | <p>○放課後児童支援員の仕事内容と求められる資質及び技能について理解している。</p> <p>○放課後児童支援員の育成支援以外の職務の内容について理解している。</p> <p>○放課後児童クラブにおける職員集団のあり方と職場倫理について理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準第7条及び第8条、放課後児童クラブ運営指針第3章、第4章5及び第7章3の内容に基づいて学び、放課後児童支援員としての役割や求められる資質及び技能などについて理解を促す。</p> <p>また、講義に際して、「1－②」、「3－⑧」及び「6－⑯」の科目内容を活用することが望ましい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 主な内容 | <p>○放課後児童支援員の仕事内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育成支援の内容と放課後児童支援員の役割</li> <li>・育成支援を支える職務の内容</li> </ul> <p>○放課後児童支援員に求められる資質及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「健全な心身を有し、豊かな人間性と倫理観を備え、児童福祉事業に熱意のある者」、「児童福祉事業の理論及び実際について訓練を受けた者」の内容</li> <li>・放課後児童支援員の自己研鑽と運営主体による資質向上のための研修機会の確保の必要性</li> </ul> <p>○放課後児童クラブにおける職員集団のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換や情報共有を図り、適切な分担と協力のもとで育成支援を行う職場体制の構築</li> <li>・事例検討や自己研鑽を通して建設的な意見交換のできる職員集団の形成</li> </ul> <p>○放課後児童支援員の社会的責任と職場倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブの役割から求められる放課後児童支援員の社会的責任</li> <li>・職場倫理の自覚と事業内容の向上への組織的な取り組み</li> </ul> |
| 講師要件 | ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目名  | 6 放課後児童支援員として求められる役割・機能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 科目名  | 6－⑯ 放課後児童クラブの運営管理と運営主体の法令の遵守                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 時間数  | 1.5 時間（90 分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ねらい  | <p>○放課後児童クラブの運営管理の内容について理解している。</p> <p>○要望及び苦情への対応のあり方について理解している。</p> <p>○運営主体の人権の尊重と法令の遵守のあり方について理解している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ポイント | <p>○主に、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準第 5 条第 2 項及び第 4 項、第 11 条、第 14 条及び第 17 条、放課後児童クラブ運営指針第 4 章、第 7 章の 1 及び 2 の内容に基づいて学び、放課後児童クラブの運営管理に当たって留意すべき事項、要望及び苦情への取り組みのあり方、運営主体が行わなければならない人権の尊重と法令遵守のあり方及び取り組みなどについて理解を促す。また、講義に際して、「1－②」及び「6－⑮」の科目内容を活用することが望ましい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 主な内容 | <p>○放課後児童クラブの運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営主体が定める事業運営についての重要事項に関する運営規程の内容</li> <li>・労働環境整備の必要性と、適正な会計管理及び情報公開</li> </ul> <p>○利用内容等の説明責任と要望及び苦情への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用に当たっての留意事項の明確化や公平性に関する説明責任</li> <li>・要望及び苦情への対応の体制整備や対応に当たっての考え方及び留意事項</li> </ul> <p>○運営内容の自己評価、第三者評価と公表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもや保護者の意見や関係機関等からの提言を事業内容に反映させることの必要性</li> <li>・事業運営の自己評価、第三者評価と公表の必要性</li> </ul> <p>○運営主体の人権の尊重と法令の遵守（個人情報保護、性暴力防止等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブの社会的責任と運営主体の責任</li> <li>・運営主体が必要とする事業運営における倫理規定の内容と法令遵守</li> </ul> |
| 講師要件 | <p>ア 放課後児童クラブにおいて、一定の知識、経験を有すると認められる放課後児童支援員等</p> <p>イ 児童厚生施設（児童館）の長又は児童厚生施設（児童館）に 5 年以上従事している児童の遊びを指導する者</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 備考   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

## Ⅱ 放課後児童支援員等資質向上研修事業

### 1 趣旨・目的

「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」（平成 26 年厚生労働省令第 63 号。以下「基準」という。）第 10 条第 1 項に規定する放課後児童支援員及び同条第 2 項に規定する補助員（以下「放課後児童支援員等」という。）等に対して必要な知識及び技術の習得並びに課題や事例を共有するための研修を行うことにより、放課後児童支援員等の資質の向上を図るものである。

### 2 実施主体

実施主体は、都道府県又は市町村（特別区を含む。以下同じ。）とする。  
ただし、実施主体が資質向上研修を実施する上で適当と認める民間団体等に事業の全部又は一部委託することができるものとする。

### 3 研修対象者

- (1) 放課後児童健全育成事業実施要綱（令和 5 年 4 月 12 日こ成環第 5 号こども家庭庁成育局長通知）別添 1 に基づく放課後児童健全育成事業を行う者に従事する放課後児童支援員等及び放課後児童健全育成事業の運営主体の責任者並びに放課後児童健全育成事業の活動に関わるボランティアなど。
- (2) 「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金実施要領（学校を核とした地域力強化プラン）」（平成 27 年 3 月 31 日文部科学省生涯学習政策局長・初等中等教育局長裁定）に基づき放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用して全ての児童生徒等の安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する放課後等支援活動（以下「放課後子供教室」という。）の担当者及び事業が円滑に運営されるためにこれらの者と連携・協力を行う学校の教職員など。

### 4 研修の内容

#### (1) 都道府県が実施する研修

放課後児童支援員等に対して資質の向上を図るために必要な知識及び技術の習得のための研修を市町村と連携して実施する。

実施に当たっては、放課後児童健全育成事業を行う場所（以下「放課後児童健全育成事業所」という。）の運営やこどもの育成支援に関する事項について、専門的な知識・技術が求められるものや多くの放課後児童健全育成事業所で共通の課題になっているものをテーマとすること。

なお、オンライン会議システム等を活用する等、効果的な実施を検討する。

＜主な具体例＞

○ こどもの権利

- こども支援者に求められる倫理
- 障害のあるこども（医療的ケアを必要とするこどもを含む）への支援
- こどもの発達理解
- 個人情報の取扱いとプライバシー保護
- 保護者との連携と支援
- 家庭における養育状況の理解
- いじめや虐待への対応
- 学校との連携
- 放課後児童クラブと放課後子供教室の連携
- 実践発表会 など

## （２）市町村が実施する研修

放課後児童支援員等に対して資質の向上を図るために、課題や事例を共有するための実務的な研修を都道府県と連携して実施する。複数の市町村が合同で実施することも可能である。

実施に当たっては、放課後児童健全育成事業所の運営やこどもの育成支援に関する事項について、基礎的な知識や事例、技術等の共有を図ることを目的としたテーマとすること。

なお、放課後児童健全育成事業所に講師が訪問する等の研修効果を高める手法も可能である。

### ＜主な具体例＞

- 安全指導と安全管理、危機管理
  - ・ 安全計画や事業継続計画の策定、見直し
  - ・ 救急措置と救急対応（実技研修）
  - ・ 防火、防災、防犯の計画と対応
  - ・ 事故、けがの予防と事後対応等
  - ・ アレルギーの理解と対応、アナフィラキシーへの対応
- 障害のあるこどもや配慮を必要とするこどもを支援するための環境構成
- おやつや食事の工夫と提供時の衛生、安全
- 放課後児童健全育成事業所における遊びや製作活動、表現活動
- 放課後児童クラブと放課後子供教室、保育所・認定こども園・幼稚園等との連携・交流
- 育成支援に関する記録の書き方と工夫
- 事例検討（ワークショップ形式） など

## ５ 留意事項

- （１） 放課後児童健全育成事業における障害のあるこどもの受入れを推進し、適切な対応を図るため、研修内容に必要な知識の習得や実践的な指導技術に関する援助方法を盛

り込むなど、障害のあるこどもへの対応を行う放課後児童支援員等の資質の向上に努めること。

- (2) 放課後子供教室の担当者に対する研修を併せて実施する場合には、放課後子供教室及び放課後児童健全育成事業それぞれの担当者又は放課後児童支援員等が両研修を相互に受講できるよう連携を図るとともに、両研修内容の整合性や日程等にも配慮すること。
- (3) 受講者名簿の管理等、研修受講者の受講履歴が確認できるよう必要な記録の整備に配慮すること。

## 6 研修参加費用

研修参加費用のうち、教材等に係る実費相当部分、研修会場までの受講者の旅費及び宿泊費については、受講者等が負担するものとする。

## 7 費用の補助

国は、都道府県又は市町村が実施する事業に対して、別に定めるところにより補助するものとする。

|     |
|-----|
| 別 紙 |
|-----|

子育て支援員研修シラバス

|        |                                                                           |
|--------|---------------------------------------------------------------------------|
| 別表 1   | 子育て支援員基本研修                                                                |
| 別表 2－1 | 子育て支援員専門研修（地域保育コース）                                                       |
| 別添 1   | 基本研修シラバス                                                                  |
| 別添 2   | 地域保育コース＜共通科目＞シラバス<br>地域保育コース＜選択科目：地域型保育＞シラバス<br>地域保育コース＜選択科目：一時預かり事業＞シラバス |
| 別添 3   | 地域保育コース＜選択科目：こども誰でも通園制度＞シラバス                                              |

(別表 1) 子育て支援員基本研修

| 科目名                                          | 区分 | 時間数 | 内 容                                                                                                                                    | 目 的                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------|----|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 子ども・子育てに関する制度や社会状況における子育て支援事業の役割を捉えるための科目 |    |     |                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                    |
| ①子ども・子育て<br>家庭の現状                            | 講義 | 60分 | <p>&lt;子ども・子育て家庭<br/>(対人援助を行う対<br/>象) に対する理解&gt;</p> <p>①子どもの育つ社会・<br/>環境</p> <p>②子育て家庭の変容</p> <p>③子どもの貧困及び子<br/>どもの非行について<br/>の理解</p> | <p>①子育て家庭と家庭生活を取<br/>り巻く社会的状況について<br/>理解する。</p> <p>②家庭の意義と多様な子育て<br/>家庭のニーズと子育て支援<br/>等の現状と課題について理<br/>解する。</p> <p>③子育て家庭への支援につ<br/>いて理解する。</p> <p>④子どもの貧困や非行などの<br/>背景の概要について理解す<br/>る。</p>                       |
| ②子ども家庭福<br>祉                                 | 講義 | 60分 | <p>&lt;子育て支援制度の理<br/>解&gt;</p> <p>①子ども・子育て支援<br/>新制度の概要</p> <p>②児童家庭福祉施策等<br/>の理解</p> <p>③児童家庭福祉に係る<br/>資源の理解</p>                      | <p>①児童家庭福祉施策・制度の概<br/>要(子ども・子育て支援新制<br/>度の概要と子育て支援員が<br/>関わる事業の枠組みと位置<br/>付け等) について理解する。</p> <p>②児童福祉施設等と専門職の<br/>役割について理解する。</p> <p>③児童家庭福祉に関する地域<br/>資源の概要(地域人材の確保<br/>を含む) について理解する。</p>                        |
| 2. 支援の意味や役割を理解するための科目                        |    |     |                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                    |
| ③子どもの発達                                      | 講義 | 60分 | <p>&lt;子ども・子育て家庭<br/>(対人援助を行う対<br/>象) に対する理解&gt;</p> <p>①発達への理解</p> <p>②胎児期から青年期ま<br/>での発達</p> <p>③発達への援助</p> <p>④子どもの遊び</p>           | <p>①子どもの発達を捉える観点<br/>について理解する。</p> <p>②子どもの発達(「発達・成長<br/>の保障」、「情緒の安定」、<br/>「生命の保持」) の概要につ<br/>いて理解する。</p> <p>③生涯発達の概要について理<br/>解する。</p> <p>④子どもの発達に応じた援助<br/>の基礎について理解する。</p> <p>⑤「遊び」の意義と「遊び」の<br/>質について理解する。</p> |
| ④保育の原理                                       | 講義 | 60分 | <p>&lt;子育て支援(対人援<br/>助)を行うための援助<br/>原理の理解&gt;</p> <p>①子どもという存在</p>                                                                     | <p>①発達・成長過程に応じた保育<br/>の基礎について理解する。</p> <p>②情緒の安定と生命の保持に<br/>係る保育の基礎について理</p>                                                                                                                                       |

|             |    |     |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                  |
|-------------|----|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |    |     | <p>の理解</p> <p>②情緒の安定・生命の保持</p> <p>③健康の保持と安全管理</p>                                                                                                                   | <p>解する。</p> <p>③子育て支援事業における安全対策や危機管理の必要性について発達との関連を踏まえて理解する。</p>                                                                                 |
| ⑤対人援助の価値と倫理 | 講義 | 60分 | <p>&lt;子育て支援（対人援助）を行うための援助原理の理解&gt;</p> <p>①利用者の尊厳の遵守と利用者主体</p> <p>②子どもの最善の利益</p> <p>③守秘義務・個人情報の保護と苦情解決の仕組み</p> <p>④保護者・職場内・関係機関・地域の人々との連携・協力</p> <p>⑤子育て支援員の役割</p> | <p>①対人援助の価値について理解する。</p> <p>②子どもの最善の利益について理解する。</p> <p>③対人援助の倫理について理解する。</p> <p>④保護者・関係者・関係機関との連携・協力の必要性について理解する。</p> <p>⑤子育て支援員の役割について理解する。</p> |

### 3. 特別な支援を必要とする家庭を理解するための科目

|             |    |     |                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|----|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ⑥児童虐待と社会的養護 | 講義 | 60分 | <p>&lt;子育て支援（対人援助）を行うための援助原理の理解&gt;</p> <p>①児童虐待と影響</p> <p>②虐待の発見と通告</p> <p>③虐待を受けた子どもに見られる行動</p> <p>④子どもの権利を守る関わり</p> <p>⑤社会的養護の現状</p> | <p>①児童虐待（家庭における配偶者等からの暴力（DV）を含む）とその影響（虐待を受けた子どもに見られる行動など）について理解する。</p> <p>②虐待を受けたと思われる子どもを発見した際の基本的な対応の概要について理解する。</p> <p>③子どもの権利擁護の基本的視点について理解する。</p> <p>④社会的養護の意義と現状の概要について理解する。</p> <p>⑤社会的養護を必要とする子どもや家庭の状況について理解する。</p> |
| ⑦子どもの障害     | 講義 | 60分 | <p>&lt;子育て支援（対人援助）を行うための援助原理の理解&gt;</p> <p>①障害の特性についての理解</p> <p>②障害の特性に応じた関わり方・専門機関との連携</p> <p>③障害児支援等の理解</p>                           | <p>①障害特性の概要について理解する。</p> <p>②障害児支援制度の概要について理解する。</p> <p>③障害特性に応じた関わり方や専門機関との連携の概要について理解する。</p> <p>④障害児支援等の現状について理解する。</p>                                                                                                    |

| 4. 総合演習 |    |     |                                                                                                                              |                                                                                                                                        |
|---------|----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ⑧総合演習   | 演習 | 60分 | ①子ども・子育て家庭の現状の考察・検討<br>②子ども・子育て家庭への支援と役割の考察・検討<br>③特別な支援を必要とする家庭の考察・検討<br>④子育て支援員に求められる資質の考察・検討<br>⑤専門研修の選択など今後の研修に向けての考察・検討 | ①履修した内容についての振り返りを図るためのグループ討議。<br>②子育て支援員に求められる資質についての理解の確認。<br>③履修した内容の総括と今後の課題認識の確認。<br>※内容欄のテーマをもとに、研修効果の定着を図るために上記①～③のいずれかの振り返りを行う。 |

(別表 2-1) 子育て支援員専門研修(地域保育コース)

1. 共通科目

| 科目名                  | 区分 | 時間数 | 内 容                                                                                              | 目 的                                                                                                                                                                                          |
|----------------------|----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 地域保育の基礎を理解するための科目 |    |     |                                                                                                  |                                                                                                                                                                                              |
| ①乳幼児の生活と遊び           | 講義 | 60分 | ①子どもの発達と生活<br>②子どもの遊びと環境<br>③人との関係と保育のねらい・内容<br>④子どもの一日の生活の流れと役割                                 | ①発達・成長過程に応じた子どもの生活への援助方法について理解する。<br>②発達にふさわしい子どもの遊びとその環境のあり方について理解する。<br>③子ども同士の関わりあい、発達を促すことについて理解する。<br>④子どもの一日の生活の流れの中での保育者(※)の役割について理解する。<br>※【共通科目】において、保育者とは、家庭的保育補助者、保育従事者及び提供会員をいう。 |
| ②乳幼児の発達と心理           | 講義 | 90分 | ①発達とは<br>②発達時期の区分と特徴<br>③ことばとコミュニケーション<br>④自分と他者<br>⑤手のはたらきと探索<br>⑥移動する力<br>⑦こころと行動の発達を支える保育者の役割 | ①0歳から3歳くらいまでの乳幼児期の発達のポイントを学び、発達に応じた遊びやその安全性について理解する。<br>②子どもの発達を支える保育者の役割について理解する。                                                                                                           |
| ③乳幼児の食事と栄養           | 講義 | 60分 | ①離乳の進め方に関する最近の動向<br>②栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント<br>③食物アレルギー<br>④保育者が押さえる食育のポイント                     | ①離乳の進め方に関する最近の動向について理解する。<br>②幼児期の昼食作りに役立つ栄養バランスのポイント、食品衛生の基礎知識について理解する。<br>③食物アレルギーについて理解する。<br>④保育者が押さえる食育のポイントについて理解する。                                                                   |
| ④小児保健 I              | 講義 | 60分 | ①乳幼児の健康観察のポイント                                                                                   | ①保育を行う上で必要となる健康管理のポイントや疾病                                                                                                                                                                    |

|        |    |      |                                                                                                             |                                                                                                  |
|--------|----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |    |      | ②発育と発達について<br>③衛生管理・消毒について<br>④薬の預かりについて                                                                    | の予防と感染防止への対応、保育中の発症への対応などの基礎知識について理解する。<br>②現場に生かせる、より具体的な対応について理解する。                            |
| ⑤小児保健Ⅱ | 講義 | 60分  | ①子どもに多い症例とその対応<br>②子どもに多い病気（SIDS等を含む）とその対応<br>※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「保育所における感染症対策ガイドライン」を周知する。<br>③事故予防と対応 | ①子どもに多い症状・病気を学び、その対応について理解する。<br>②小児に多い事故を学び、その予防と対応について理解する。<br>③異物除去法、心肺蘇生法を学び、緊急時の対応について理解する。 |
| ⑥心肺蘇生法 | 実技 | 120分 | ①心肺蘇生法、AED、異物除去法等<br>※見学だけの科目にならないよう参加人数等の配慮が必要。                                                            | ①乳幼児を対象とした救急救命が行えるように、その技術を身につける。                                                                |

## 2. 地域保育の実際を理解するための科目

|                  |    |     |                                                   |                                                                                                                                                       |
|------------------|----|-----|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ⑦地域保育の環境整備       | 講義 | 60分 | ①保育環境を整える前に<br>②保育に必要な環境とは<br>③環境のチェックポイント        | ①保育環境の整備に当たり、基本的な考え方と配慮事項について理解する。<br>②保育を行うために作られた場所ではないところを保育の場として利用する上での工夫や配慮について理解する。<br>③保育に必要な設備・備品とその配置について、具体的事例およびチェックポイントを示し、自己点検を行えるようにする。 |
| ⑧安全の確保とリスクマネジメント | 講義 | 60分 | ①子どもの事故<br>②子どもの事故の予防<br>保育上の留意点<br>③緊急時の連絡・対策・対応 | ①保育環境上起こりうる危険について学び、事故を未然に防ぐための予防策や安全確保の留意点について理解する。                                                                                                  |

|                          |       |     |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------|-------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                          |       |     | ④リスクマネジメントと賠償責任                                                                                       | ②万一事故が起こった場合の対応や報告について理解する。                                                                                                                                                                    |
| ⑨保育者の職業倫理と配慮事項           | 講義・演習 | 90分 | ①保育者の職業倫理<br>②保育者の自己管理<br>③地域等との関係<br>④保育所や様々な保育関係者との関係<br>⑤行政との関係<br>⑥地域型保育の保育者の役割の検討（演習）            | ①保育者としての職業倫理について理解する。<br>②保育者の自己管理について理解する。<br>③地域住民との関係づくりについて理解する。（家庭的保育における家庭的保育者の家族との関係にも留意する。）<br>④保育所や様々な保育関係者との関係づくり、行政との関係などについて理解する。<br>⑤児童虐待が疑われた場合の保育者としての対応について理解する。               |
| ⑩特別に配慮を要する子どもへの対応（0～2歳児） | 講義    | 90分 | ①気になる行動<br>②気になる行動をする子どもの行動特徴<br>③気になる行動への対応の考え方<br>④気になる行動の原因とその対応<br>⑤保育者の役割<br>⑥遊びを通して、子どもの発達を促す方法 | ①0～2歳の気になる行動をどのように考え、どう関わっていけばよいかを行動特徴の把握などを通して理解する。<br>②特別に配慮を要する子どもへの対応における保育者の役割について理解する。<br>※ 発達の遅れが疑われる場合、保護者の思いを踏まえた上での対応の必要性について理解する。<br>（専門機関との連携を含む。）<br>③遊びを通して、子どもの発達を促す方法について理解する。 |
| 3. 研修を進める上で必要な科目         |       |     |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                |
| ⑪グループ討議                  | 演習    | 90分 | ①討議の目的<br>②討議の原則<br>③討議の効果<br>④討議のすすめ方<br>⑤グループ討議（演習）                                                 | ①研修参加者が討議のテーマにそって話し合うための方法やマナーについて理解する。<br>②テーマについて、自分の意見を述べたり、他の参加者の意見を聞く相互作用を通                                                                                                               |

|                              |    |                 |                |                                                                                                                           |
|------------------------------|----|-----------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                              |    |                 |                | <p>して、考えをまとめ、問題点を整理し、解決方法を検討する。</p> <p>③今後学びたい内容あるいは助言者に質問したいことなどを、グループ内で話し合う。</p> <p>④研修で学んだこと等についてグループ討議を行い、理解を深める。</p> |
| 4. 自治体の制度や地域の保育事情等を理解するための科目 |    |                 |                |                                                                                                                           |
| ⑫実施自治体の制度について<br>(任意)        | 講義 | 60分<br>～<br>90分 | ①関係機関<br>②地域資源 | <p>①実施自治体の保育関係施策や関係機関について理解する。</p> <p>※ 一時預かり事業を含めた地域子ども・子育て支援事業について理解する。</p>                                             |

## 2. 選択科目（地域型保育）

| 科目名               | 区分    | 時間数  | 内 容                                                                                                  | 目 的                                                                                                                                                          |
|-------------------|-------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①地域型保育の概要         | 講義    | 60分  | ①地域型保育の事業概要<br>②地域型保育の特徴<br>③地域型保育のリスクを回避するための課題                                                     | ①地域型保育の各事業の概要や位置づけについて理解する。<br>②地域型保育の特徴を学び、保育所保育との共通点、相違点について理解する。<br>③規模の小さい地域型保育の意義及びリスクについて学び、リスクを回避するための課題について理解する。<br>(注) 一時預かり事業の研修受講を促す。             |
| ②地域型保育の保育内容       | 講義・演習 | 120分 | ①地域型保育における保育内容<br>②地域型保育の1日の流れ<br>③異年齢保育<br>④新しく子どもを受け入れる際の留意点<br>⑤地域の社会資源の活用<br>⑥保育の計画と記録<br>⑦保育の体制 | ①地域型保育における基本的な1日の流れや保育内容について理解する。<br>②少人数の異年齢児を保育する際の方法、工夫、留意事項などについて理解する。<br>③新しく子どもを受け入れる際の留意点について理解する。<br>④計画や記録の必要性を学び、子どもの育ちの見通しをもって保育することの重要性について理解する。 |
| ③地域型保育の運営         | 講義    | 60分  | ①設備及び運営の基準の遵守<br>②情報提供<br>③受託までの流れ<br>④地域型保育の運営上必要な記録と報告                                             | ①設備及び運営の基準の内容について理解する。<br>②情報提供の方法、受託前の利用者との面接、記録や報告の管理などについて理解する。                                                                                           |
| ④地域型保育における保護者への対応 | 講義・演習 | 90分  | ①保護者との関わりと対応<br>②保護者への対応の基本<br>③子育て支援における保護者への相談・助言の原則<br>④保護者への対応 ～事例を通して考える～                       | ①保護者と協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を学び、このために必要な知識と技術について理解する。<br>②地域型保育における保護者への対応において、保護者との信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイント                  |

|                |       |                    |                                                                                                      |                                                                                                                                                                   |
|----------------|-------|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                |       |                    |                                                                                                      | トを学び、事例検討などを通して考え、理解する。                                                                                                                                           |
| ⑤見学実習オリエンテーション | 演習    | 30分～60分            | ①見学実習の目的<br>②見学実習のポイントと配慮事項<br>※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。                                                 | ①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。<br>②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。                                                                                       |
| ⑥見学実習          | 実習    | 2日以上               | 1日目<br>保育の1日の流れを見る<br>2日目<br>保育の記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ<br>※認可保育所での0～2歳児の保育に関する見学実習も可能とする。 | ①地域型保育の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。<br>②保育に取り組むに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。（家庭的保育は、家庭的保育者個人の自宅であり、異なる地域の環境の中でそれぞれ独自の工夫をして、保育を展開していることに留意する。） |
|                | 講義・演習 | 実習と同程度の内容を担保（1日以上） | ※可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。                                        | ③（見学実習を講義・演習に代える場合）子どものおむつ交換、食事の介助など、子どもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクや母乳瓶などの実物を知る。                                                                                      |

### 3. 選択科目（一時預かり事業）

| 科目名                 | 区分    | 時間数  | 内 容                                                                           | 目 的                                                                                                                                                  |
|---------------------|-------|------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①一時預かり事業の概要         | 講義    | 60分  | ①一時預かり事業とは<br>②一時預かり事業の意義<br>③一時預かり事業の特徴<br>④一時預かり事業従事者の基本姿勢                  | ①一時預かり事業の子育て支援としての意義、継続的な保育との相違について理解する。<br>②一時預かり事業の特徴を学び、従事者として、子どもや保護者との関わり方における基本姿勢について理解する。                                                     |
| ②一時預かり事業の保育内容       | 講義・演習 | 120分 | ①初めて会う子どもとの関係づくり<br>②一人ひとりの発達に応じた生活・遊びの援助<br>③子どもが安心して過ごせる環境づくり               | ①初めて会う子どもとの信頼関係を形成する具体的な関わり方について理解する。<br>②一時預かり事業は子どもの家庭生活の延長にあるため、一人ひとりの状態に対応し、子どもが安心して過ごせるようにすることについて理解する。<br>③子どもの不安を安心に変える具体的な関わり方について理解する。      |
| ③一時預かり事業の運営         | 講義    | 60分  | ①一時預かり事業の業務の流れ<br>②情報提供、受付、登録<br>③記録、保護者への報告<br>④職場倫理・チームワーク、職員間の共通理解         | ①一時預かり事業の業務の流れについて理解する。<br>②記録や保護者への報告の記載の仕方、保護者のプライバシーの遵守、職員間の連携の必要性について理解する。                                                                       |
| ④一時預かり事業における保護者への対応 | 講義・演習 | 90分  | ①保護者との関わりと対応<br>②保護者への対応の基本<br>③子育て支援における保護者への相談・助言の原則<br>④保護者への対応～事例を通して考える～ | ①保護者と協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を学び、このために必要な知識と技術について理解する。<br>②一時預かり事業における保護者への対応において、信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通 |

|                |       |                    |                                                                                                |                                                                                                                                                                                   |
|----------------|-------|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                |       |                    |                                                                                                | して考え、理解する。                                                                                                                                                                        |
| ⑤見学実習オリエンテーション | 演習    | 30分～60分            | ①見学実習の目的<br>②見学実習のポイントと配慮事項<br>※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。                                           | ①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。<br>②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。                                                                                                       |
| ⑥見学実習          | 実習    | 2日以上               | 1日目<br>保育の1日の流れを見る<br>2日目<br>保育の記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ<br>※認可保育所での保育に関する見学実習も可能とする。 | ①一時預かり事業の現場に向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。<br>②保育に取り組むに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。<br>③（見学実習を講義・演習に代える場合）子どものおむつ交換、食事の介助など、子どもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。 |
|                | 講義・演習 | 実習と同程度の内容を担保（1日以上） | ※可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。                                  |                                                                                                                                                                                   |

5. 選択科目（こども誰でも通園制度（乳児等通園支援事業））

| 科目名              | 区分    | 時間数  | 内 容                                                                                         | 目 的                                                                                                                                     |
|------------------|-------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①こども誰でも通園制度の概要   | 講義    | 60分  | ①こども誰でも通園制度とは<br>②こども誰でも通園制度の意義<br>③事業を実施する上での留意事項<br>④全てのこどもの育ちを応援し、全ての子育て家庭に対する支援を強化するために | ①こども誰でも通園制度の事業概要や制度上の位置づけを把握する。<br>②こども誰でも通園制度が創設された背景を学び、こども誰でも通園制度の意義を理解する。<br>③こども誰でも通園制度に従事する保育者としての、こどもや保護者との関わり方における基本姿勢について理解する。 |
| ②こども誰でも通園制度の保育内容 | 講義・演習 | 120分 | ①こどもの理解に基づく援助<br>②一人一人に応じた生活・遊びの援助<br>③こどもが安心して過ごせる環境づくり<br>④こどもとの関係づくりと利用状況等を踏まえた配慮        | ①こどもの状態・状況等に応じた生活・遊びの援助について理解する。<br>②こどもが安心して過ごすことができる環境づくり、職員との関係づくりのための具体的な関わり方、配慮や工夫について理解する。                                        |
| ③こども誰でも通園制度の運営   | 講義    | 60分  | ①こども誰でも通園制度の業務の流れ<br>②情報提供、事前面談<br>③記録、保護者への報告<br>④職場倫理、チームワ                                | ①こども誰でも通園制度の業務の流れについて理解する。<br>②記録や保護者への報告の仕方、利用者のプライバシーの遵守（個人情報保護や                                                                      |

|                         |       |         |                                                                                                  |                                                                             |
|-------------------------|-------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
|                         |       |         | ーク・職員間の連携、共通理解                                                                                   | 守秘義務）、職員間の連携の必要性について理解する。                                                   |
| ④ こども誰でも通園制度における保護者への対応 | 講義・演習 | 90分     | ①保護者への基本的な対応<br>②保護者とともにこどもの育ちを支えていくための関わり<br>③その他の留意事項<br>④こども誰でも通園制度における保護者への対応（演習）～事例を通じて考える～ | ①子育て支援の基本を踏まえた保護者への関わり方を理解する。<br>②こども誰でも通園制度の特性を踏まえた保護者への対応のポイントや留意点を理解する。  |
| ⑤ 見学実習オリエンテーション         | 演習    | 30分～60分 | ①見学実習の目的<br>②見学実習のポイントと配慮事項<br>※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。                                             | ①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。<br>②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。 |

|       |    |          |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                       |
|-------|----|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ⑥見学実習 | 実習 | 2日<br>以上 | <p>1日目<br/>こども誰でも通園制度の1日の流れを見る</p> <p>2日目<br/>記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ</p> <p>※こども誰でも通園制度を実施している事業所がない地域においては、一時預かり事業所又は認可保育所での低年齢児保育に関する見学実習による代替も可能とする。</p> <p>※可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。</p> | <p>①こども誰でも通園制度の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。</p> <p>②こどもとの関わりに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。</p> <p>③（見学実習を講義・演習に代える場合）こどものおむつ交換、食事の介助など、こどもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。</p> |
|-------|----|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# 別添 1

## 基本研修シラバス

【研修の構造：子ども・子育てに関する制度や社会状況における子育て支援事業の役割を捉えるための科目】

＜科目名＞

① 子ども・子育て家庭の現状（講義・60分）

＜目的＞

1. 子育て家庭と家庭生活を取り巻く社会的状況について理解する。
2. 家庭の意義と多様な子育て家庭のニーズと子育て支援等の現状と課題について理解する。
3. 子育て家庭への支援について理解する。
4. 子どもの貧困や非行などの背景の概要について理解する。

＜内容＞

○子ども・子育て家庭（対人援助を行う対象）に対する理解

1. 子どもの育つ社会・環境

子どもや子育て家庭を取り巻く社会・環境がどのように変化しているのか、家庭・家族・地域の果たす役割について現状と課題についての理解する。

（1）都市化と地域社会

（2）少子化社会とその背景

（3）子どもの生活（家庭生活、学校生活、放課後生活）

（4）男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス

2. 子育て家庭の変容

家庭の意義や機能とは何かについて理解する。また、家族・家庭生活と人間関係がどのように変化しているのか、さまざまな課題を抱える子育て家庭に対する支援の意義について理解する。

（1）子育て家庭の変化（意義・機能、家族形態、子どもの数、離婚率の上昇）

（2）子育て不安とストレス（親準備性、相談相手、近所づきあい、悩み）

（3）保護者の就労と子育て

（4）父親の育児参加

（5）ひとり親家庭

3. 子どもの貧困及び子どもの非行についての理解

子どもの貧困の要因や背景について理解するとともに、子どもの非行の現状と予防について理解する。

（1）子どもの貧困の増大とその影響

（2）子どもの非行の現状と予防

＜研修に当たっての考え方＞

子育て支援員の支援対象となる子育て家庭を取り巻く社会環境について、少子高齢化、地域コミュニティの変化及び男女共同参画社会の中でのワーク・ライフ・バランス等の観点から学ぶ。また、子育て家庭の変容にともなう家庭の意義と機能や家庭に対する支援の必要性について理解する。さらに子どもの貧困と子どもの非行について学ぶものとする。

## 基本研修シラバス

【研修の構造：子ども・子育てに関する制度や社会状況における子育て支援事業の役割を捉えるための科目】

<科目名>

② 子ども家庭福祉（講義・60分）

<目的>

1. 児童家庭福祉施策・制度の概要（子ども・子育て支援新制度の概要と子育て支援員が関わる事業の枠組みと位置付け等）について理解する。
2. 児童福祉施設等と専門職の役割について理解する。
3. 児童家庭福祉に関する地域資源の概要（地域人材の確保を含む）について理解する。

<内容>

○子育て支援制度の理解

1. 子ども・子育て支援新制度の概要

少子化の現状や少子化が及ぼす影響を概観し、児童家庭福祉施策の構造と体系の意義と理念について理解するとともに、子ども・子育て支援新制度の概要と子育て支援サービスの役割について理解する。

- (1) 児童家庭福祉の理念
- (2) 少子化と保育ニーズ・子育て支援ニーズ
- (3) 子ども・子育て支援新制度の概要

(2)、(3)において、多様な保育サービス、地域子育て支援、放課後児童健全育成事業の役割に触れる。

2. 児童福祉施設等の理解

児童福祉施設等の種類とその概要及び児童福祉施設等の利用の仕組みについて理解するとともに、児童の問題を解決するために必要となる児童福祉の専門職等の職務内容・専門性等について理解する。

- (1) 児童福祉施設等の概要
- (2) 児童福祉の専門職・実施者

3. 児童家庭福祉に係る資源の理解

子育て家庭の多様な保育ニーズに応じるための、子育て支援サービスの現状と子育て家庭を支える福祉に関する施策や社会資源を概観するとともに、各地域の保育や子育て支援に関する社会資源の整備状況等を理解する。

- (1) 地域における社会資源の状況（子育て支援員の働く場）

<研修に当たっての考え方>

子育て支援制度を理解するため、児童家庭福祉に関する理念及び児童家庭福祉の制度・施策の概要を学ぶとともに、子育て支援サービスと子ども・子育て支援新制度の概要について学ぶ。また、児童家庭福祉施策を支える児童福祉施設等やその担い手について学ぶ。「3. 児童家庭福祉に係る資源の理解」においては、多様な保育ニーズ等を支えるための社会資源について研修の実施地域の状況等も併せて学ぶものとする。

## 基本研修シラバス

【研修の構造：支援の意味や役割を理解するための科目】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ＜科目名＞<br>③ 子どもの発達（講義・60分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ＜目的＞<br>1. 子どもの発達を捉える観点について理解する。<br>2. 子どもの発達（「発達・成長の保障」、「情緒の安定」、「生命の保持」の視点）の概要について理解する。<br>3. 生涯発達の概要について理解する。<br>4. 子どもの発達に応じた援助の基礎について理解する。<br>5. 「遊び」の意義と「遊び」の質について理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ＜内容＞<br>○子ども・子育て家庭（対人援助を行う対象）に対する理解<br>1. 発達への理解<br>子どもの心と身体の発達の概要を学び、生涯にわたる人間形成の基礎を培う乳幼児期の重要性を理解するとともに、能動的な存在である子どもの成長・発達過程における環境の果たす役割について理解する。<br>(1) 子どもの発達を理解することの意義<br>(2) 子どもの発達と環境<br>2. 胎児期から青年期までの発達<br>人間が生涯にわたり発達するものであること。胎児期から青年期までの発達について、各発達段階の特性や子どもの発達の特徴について理解する。<br>(1) 生涯発達と発達援助<br>(2) 胎児期及び新生児期の発達<br>(3) 乳児期の発達<br>(4) 学童期から青年期の発達<br>3. 発達への援助<br>乳幼児の健全な発達のための保育者のあり方と基本的生活習慣を獲得するための援助の発達過程に応じた対応を理解するとともに、発達の過程で生じる発達上の課題への援助や関わりについて、発達過程の特性を踏まえ理解する。また、保育者の発達援助に及ぼす影響についても理解する。<br>(1) 基本的生活習慣の獲得と発達援助<br>(2) 発達の課題に応じた援助や関わり<br>4. 子どもの遊び<br>子どもの「遊び」の意義や、自発的な「遊び」が生涯にわたって生きる力の基礎を培うこと及び保育者の「遊び」への援助のあり方などを理解する。<br>(1) 子どもの生活と遊び<br>(2) 子どもの遊びと学び<br>(3) 生涯にわたる生きる力の基礎を培う<br>(4) 遊びによる総合的な保育 |

### ＜研修に当たっての考え方＞

子育て支援員の支援対象である子どもの発達を理解するため、心身の発育・発達が著しく、人格の基礎が形成される重要な時期である乳幼児期について学び、個人差の大きい乳幼児期の子どもたち一人一人の健やかな育ちを保障することが重要であることや胎児期から青年期までの発達過程での特徴や課題及び適切な援助について学ぶ。

また、「子どもの遊び」が生涯にわたって生きる力の基礎を培うものであること、保育を通した「遊び」への関わり方を学ぶものとする。

## 基本研修シラバス

【研修の構造：支援の意味や役割を理解するための科目】

＜科目名＞

④ 保育の原理（講義・60分）

＜目的＞

1. 発達・成長過程に応じた保育の基礎について理解する。
2. 情緒の安定と生命の保持に係る保育の基礎について理解する。
3. 子育て支援事業における安全対策や危機管理の必要性について発達との関連を踏まえて理解する。

＜内容＞

○子育て支援（対人援助）を行うための援助原理の理解

1. 子どもという存在の理解

子どもは、一人一人の特性や発達が尊重される存在であること。また、子どもの能動的な活動としての遊びが学びの芽であることを理解する。

- (1) 権利主体としての子ども
- (2) 能動的な存在としての子ども
- (3) 保育における子どもとの協働

2. 情緒の安定・生命の保持

子どもの心身の健康のためには、安心・安定した環境が重要であり、情緒の安定は子どもの発達や成長にも影響することを理解するとともに、子どもの感情の変化と自我等の成長を踏まえた保育の意義を理解する。

- (1) 生命の保持と情緒の安定
- (2) 子どもの発達の特性と保育内容
- (3) 子どもの感情の発達と自我

3. 健康の保持と安全管理

子どもの安全を図るための健康状態の把握の意義や危機管理の必要性について理解するとともに、子どもの各成長段階等の特性に応じた事故事例やリスク等及び事故等の防止のための取組みの必要性について理解する。

- (1) 子どもの健康状態の把握
- (2) 子どもの事故の特性
- (3) 事故防止及び健康安全管理に関する取組み

＜研修に当たっての考え方＞

保育の原理として、子どもの発達と成長を保障するために、個人差や発達過程に応じた保育を行う必要と意味を学ぶ。また、「情緒の安定」と「生命の保持」が子どもの成長の基盤となることについて学ぶ。さらに、子どもが健康で安全・安心して生活を送るために必要となる健康状態の確認や、子どもに関する事故の特性について学ぶものとする。

なお、事業の特性に応じた対応等については、各専門研修において学ぶことから、基本研修では子どもが安全・安心して過ごすために必要となる事故の特性等について学ぶ必要性について理解する。

## 基本研修シラバス

【研修の構造：支援の意味や役割を理解するための科目】

＜科目名＞

⑤ 対人援助の価値と倫理（講義・60分）

＜目的＞

1. 対人援助の価値について理解する。
2. 子どもの最善の利益について理解する。
3. 対人援助の倫理について理解する。
4. 保護者・関係者・関係機関との連携・協力の必要性について理解する。
5. 子育て支援員の役割について理解する。

＜内容＞

○子育て支援（対人援助）を行うための援助原理の理解

1. 利用者の尊厳の遵守と利用者主体  
一人一人の利用者は権利主体であり、個々が価値ある存在として尊重され、その文化的・民族的多様性が保障されることを理解する。対人援助の基本である「受容」「自己決定の尊重」について学び、利用者の主体性を重視した支援を理解する。
2. 子どもの最善の利益  
「子どもの最善の利益」の意味を理解し、子育て支援が子どもの人権と最善の利益を実現するために必要な支援について理解する。  
(1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
3. 守秘義務・個人情報の保護と苦情解決の仕組み  
利用者のプライバシーに関わる情報の保護に留意した援助と守秘義務について理解するとともに、専門職と連携して支援することが必要な場合の情報共有のあり方について理解する。また、子育て支援分野のサービス利用における利用者の権利擁護や権利侵害への対応や仕組みについて理解する。  
(1) プライバシーの保護と守秘義務  
(2) 利用者の権利擁護と苦情解決
4. 保護者・職場内・関係機関・地域の人々との連携・協力  
地域資源の活用と関係機関との連携・協力と保育士等の専門職の役割や意義を理解する。  
(1) 他の専門機関・専門職や地域の住民等の活動との連携の必要性  
(2) 子どもや子育てをともに支える専門機関や地域住民等の活動
5. 子育て支援員の役割  
子育て支援員の各事業等における位置づけと役割について理解するとともに、保育士等の専門職との連携・協働について理解する。  
(1) 子育て支援員に求められる役割  
(2) 保育士等の専門職との連携

＜研修に当たっての考え方＞

利用者一人一人の状況等に応じた援助を行うために、対人援助の原理、価値を理解する。また、「子どもの最善の利益」及び「利用者主体」の考え方のほか、対象者の尊厳の遵守について学ぶ。さらに、子育て支援分野で従事する上で必要となる子育て支援員の役割及び保育の専門性の理解と保育士との協働について学ぶものとする。

## 基本研修シラバス

【研修の構造：特別な支援を必要とする家庭を理解するための科目】

＜科目名＞

⑥ 児童虐待と社会的養護（講義・60分）

＜目的＞

1. 児童虐待（家庭における配偶者に対するDVを含む）とその影響（虐待を受けた子どもに見られる行動など）について理解する。
2. 虐待を受けたと思われる子どもを発見した際の基本的な対応の概要について理解する。
3. 子どもの権利擁護の基本的視点について理解する。
4. 社会的養護の意義と現状について概要を理解する。
5. 社会的養護を必要とする子どもや家庭の状況について理解する。

＜内容＞

○子育て支援（対人援助）を行うための援助原理の理解

1. 児童虐待と影響

児童虐待の定義や虐待が子どもに及ぼす影響について理解し、児童虐待の基本的な考え方（家庭の特質及び虐待を受けている子どもの特質）や児童虐待対応の原則について学ぶ。

- （1）児童虐待とは（児童虐待の定義、しつけと虐待の違い、種別、実態、配偶者間暴力（DV））
- （2）虐待の子どもに及ぼす影響

2. 虐待の発見と通告

虐待が疑われる事案を発見した際の留意点及び対応の原則を理解する。

- （1）児童虐待の発見のポイント
- （2）児童虐待の通告

3. 虐待を受けた子どもに見られる行動

「1. 児童虐待と影響」の学びから、具体的な事例をもとに理解を深める。

- （1）虐待が疑われる子どもに見られる行動

4. 子どもの権利を守る関わり

虐待が不当な権利侵害であることを理解するとともに、保育等に携わる職員の虐待（被措置児虐待）など不適切な対応について理解する。

- （1）子育て支援員が不適切な関わりを行わないための注意事項

5. 社会的養護の現状

児童家庭福祉における社会的養護の意義について理解し、家庭での養育が困難となった児童の状況及び社会的養護の現状について理解する。

- （1）社会的養護の理念
- （2）社会的養護の実態
- （3）施設養護と家庭的養護

＜研修に当たっての考え方＞

児童虐待が子どもの心身の成長や人格形成に重大な影響を与える子どもに対する最も重大な権利侵害であることを理解し、児童虐待の定義や及ぼす影響、発見時の通告等の対応方法・留意点について学ぶ。また、一人一人の子どもの人権を守る支援のあり方についても学ぶ。また、「社会的養護の現状」においては、様々な事情により家庭での養育が困難な子どもを公的責任で社会的に保護養育するとともに、養育に大きな困難を抱える子育て家庭を支援する社会的養護の基礎的な事項について学ぶものとする。

## 基本研修シラバス

【研修の構造：特別な支援を必要とする家庭を理解するための科目】

＜科目名＞

⑦ 子どもの障害（講義・60分）

＜目的＞

1. 障害特性の概要について理解する。
2. 障害児支援制度の概要について理解する。
3. 障害特性に応じた関わり方や専門機関との連携の概要について理解する。
4. 障害児支援等の現状について理解する。

＜内容＞

○子育て支援（対人援助）を行うための援助原理の理解

1. 障害の特性についての理解

様々な障害の特性について理解する。

（1）発達障害児（注意欠陥多動障害（ADHD）、学習障害（LD）等）の理解

（2）肢体不自由児、視覚・聴覚障害児、知的障害児の理解

2. 障害の特性に応じた関わり方・専門機関との連携

障害の特性に応じた障害児への支援や援助方法の基本について理解し、地域の専門機関の概要及び連携のあり方について概観する。

（1）障害の特性に応じた保育等の支援と発達援助の理解

（2）特別な支援を必要とする子どもの発達を促す生活や遊びの環境

（3）子ども同士の関わり合いと育ち合い（共生とインクルージョン）

（4）地域の専門機関との連携

3. 障害児支援等の理解

障害のある子どもの成長や発達を支援する障害児支援制度について、各種制度・施策の概要及び最近の動向について理解するとともに、障害児支援のあり方について理解する。

（1）障害児支援制度の概要

（2）障害児支援サービスの実情と最近の動向

（3）障害のある子どもの保護者への支援

＜研修に当たっての考え方＞

対人援助を行うための援助原理の理解として、子どもの障害についての特性や支援制度について学ぶ。障害児に対する保育等の支援については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、その子どもの発達や日々の状態に対応した柔軟な保育について学ぶとともに、保護者や地域、専門機関等との連携のあり方について学ぶ。

## 基本研修シラバス

### 【総合演習】

#### <科目名>

⑧ 総合演習（演習・60分）

#### <目的>

1. 履修した内容についての振り返りを図るためのグループ討議
2. 子育て支援員に求められる資質についての理解の確認
3. 履修した内容の総括と今後の課題認識の確認

#### <内容>

総合演習は、次の1～5の項目のいずれかについて、課題の確認と履修内容の理解を目的にグループ討議や事例検討、などの手法により研修効果の定着を図る。

1. 子ども・子育て家庭の現状の考察・検討  
・多様な子ども・子育て家庭の状況やニーズ及びその背景について など
2. 子ども・子育て家庭への支援と役割の考察・検討  
・支援の対象となる子どもの発達や成長について  
・子ども・子育て家庭への支援の意味と役割について など
3. 特別な支援を必要とする家庭の考察・検討  
・特別な支援を必要とする家庭の理解について  
・「子どもの最善の利益」の意義について など
4. 子育て支援員に求められる資質の考察・検討  
・社会性、公平性、子どもや家庭の特性への対応について など
5. 専門研修の選択など今後の研修にむけての考察・検討  
・基本研修の履修後の子育て支援に対する理解について  
・専門研修の履修に向けた基本研修の意義について など

※ 総合演習については、レポートの提出により代替することができる。代替する場合には研修効果の定着が図られるよう研修を実施するよう留意すること。

#### <研修に当たっての考え方>

基本研修において履修した内容について、演習形式での振り返りやアウトプットにより履修内容の確認・定着を図ることを目的とするものであり、双方向での研修により聴くだけの研修に終わることがないように研修を実施する。

また、子育て支援員研修においては、試験を課して研修の理解度などを評価することを求めているところであるが、受講者がこの基本研修を踏まえて、更なる学びと職務実践への意欲・姿勢が確かなものになるよう履修内容の定着に留意する。

## 別添 2

### 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

#### ＜科目＞

- ① 乳幼児の生活と遊び（講義・60分）

#### ＜目的＞

1. 発達・成長過程に応じた子どもの生活への援助方法について理解する。
2. 発達にふさわしい子どもの遊びとその環境のあり方について理解する。
3. 子ども同士の関わりあいが、発達を促すことについて理解する。
4. 子どもの一日の生活の流れの中での保育者（※）の役割について理解する。

（※）「共通科目」において、保育者とは、家庭的保育補助者、保育従事者及び提供会員をいう。

#### ＜内容＞

1. 子どもの発達と生活  
子どもが安心して過ごせるよう、生活の場の移行に伴う子どもの家庭生活との連続性や発達段階に応じた保育に対する配慮について理解する。  
(1) 生活や発達の連続性に考慮した保育
2. 子どもの遊びと環境  
子どもは遊びを通して発達することを学び、遊びとその環境の重要性について理解する。  
(1) 遊びによる総合的な保育  
(2) 遊びを豊かにする環境のあり方
3. 人との関係と保育のねらい・内容  
それぞれの発達段階において、子どもが経験しておきたいことを学び、発達段階に応じて行われる具体的な保育内容を理解する。  
(1) 発達段階に応じた保育のねらいと保育内容
4. 子どもの一日の生活の流れと役割  
それぞれの発達段階に応じた一日の過ごし方と子どもの発達段階に応じて見られる子どもの具体的な姿、保育者の役割を理解する。  
(1) 発達段階に応じた一日の流れと子どもの姿

#### ＜研修に当たっての考え方＞

実践する保育の内容に対する具体的なイメージを持ち、対象となる乳幼児の生活と遊びの重要性を理解するため、子どもの発達段階に応じた生活への援助方法、子どもが楽しく過ごせるような関わり方と環境の構成、一日の流れ、生活や遊びの中での保育者の役割を学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

＜科目＞

② 乳幼児の発達と心理（講義・90分）

＜目的＞

1. 0歳から3歳くらいまでの乳幼児期の発達のポイントを学び、発達に応じた遊びやその安全性について理解する。
2. 子どもの発達を支える保育者の役割について理解する。

＜内容＞

1. 発達とは  
「保育所保育指針」に記載されている子どもの発達についてのとらえ方を理解する。
2. 発達時期の区分と特徴  
「保育所保育指針」に記載されている発達時期の区分と特徴について理解する。
3. ことばとコミュニケーション  
発達段階に応じたコミュニケーションの方法（泣き、喃語、手さし・指さし、二語文等）について理解する。
4. 自分と他者  
発達段階に応じて乳幼児が行う行動の意味について理解する。（アタッチメント（愛着）、指しゃぶり、後追いと人見知り、友だちとのかかわり、保護者から離れて遊ぶ等）
5. 手のはたらきと探索  
発達段階に応じた手の使い方や動き、手を使った遊びについて理解する。
  - （1）手の使い方と動き
  - （2）手先の器用さ
  - （3）さかんになる探索活動 ～実体験から学ぶ～
  - （4）発達に伴う遊びの変化
6. 移動する力  
自力での移動を行うことができる時期のかかわり方のポイント、事故について注意すべき事項について理解する。
  - （1）移動運動
7. こころと行動の発達を支える保育者の役割  
乳幼児期の遊びと保育者の役割について理解する。
  - （1）乳幼児期の発達を支える保育者の役割
  - （2）乳児期の遊びの重要性
  - （3）日常生活の経験と遊びへのつながり

＜研修に当たっての考え方＞

発達段階に応じて、子どもと適切に関わることや応答的に関わることを理解するため、発達段階に応じた子どもの特徴（コミュニケーションの仕方、手の動き、移動する力、保育者の役割等）を学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

＜科目＞

③ 乳幼児の食事と栄養（講義・60分）

＜目的＞

1. 離乳の進め方に関する最近の動向について理解する。
2. 幼児期の昼食作りに役立つ栄養バランスのポイント、食品衛生の基礎知識について理解する。
3. 食物アレルギーについて理解する。
4. 保育者がおさえる食育のポイントについて理解する。

＜内容＞

1. 離乳の進め方に関する最近の動向  
「授乳・離乳の支援ガイド」のねらいと、「授乳・離乳の支援ガイド」を活用した育児支援について理解する。  
(1) 「授乳・離乳の支援ガイド」について  
(2) 「授乳・離乳の支援ガイド」を活用した育児支援
2. 栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント  
幼児期の食事作りの配慮事項（栄養、食品構成、衛生管理等）について理解する。  
(1) 幼児期の栄養・食生活の特性  
(2) 食事摂取基準と食品構成  
(3) 幼児期の食事作りで配慮すべき点  
(4) 幼児期の献立の立て方  
(5) 衛生管理
3. 食物アレルギー  
食物アレルギーに関する基本的考え方や配慮事項について理解する。
4. 保育者が押さえる食育のポイント  
発達段階に応じて「食べる意欲」を支援する食育のポイントについて理解する。  
(1) 食育の目標と内容  
(2) 手づかみ食について  
(3) 乳幼児期の食育のめざすもの  
(4) 食育の実例

＜研修に当たっての考え方＞

乳幼児の食事について、提供する際の留意事項や保護者に対する助言のポイントについて理解するため、最近の離乳の進め方、幼児期の食事作りのポイント、食物アレルギー、食育に関するポイントを学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

＜科目＞

④ 小児保健Ⅰ（講義・60分）

＜目的＞

1. 保育を行う上で必要となる健康管理のポイントや疾病の予防と感染防止への対応、保育中の発症への対応などの基礎知識について理解する。
2. 現場に生かせる、より具体的な対応について理解する。

＜内容＞

1. 乳幼児の健康観察のポイント  
乳幼児の健康観察における留意事項について理解する。
  - (1) バイタルサインの観察
  - (2) 子どもの健康状態の変化の特徴
  - (3) 日々の観察  
※乳幼児突然死症候群の予防、留意事項について説明
2. 発育と発達について  
乳幼児の発育・発達や健康状態の把握、健康診断及び母子健康手帳の記載内容の活用。
  - (1) 入所前における子どもの健康状態の把握
  - (2) 嘱託医や関係機関との連携
3. 衛生管理・消毒について  
「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」に定める衛生管理等、実際に行う衛生管理の具体的な方法について理解する。
  - (1) 保育室の環境整備（室温、換気、採光等）
  - (2) 施設整備の衛生管理
  - (3) 手指の衛生
  - (4) その他の衛生管理
4. 薬の預かりについて  
与薬に当たっての配慮事項について理解する。
  - (1) 与薬に際しての注意点

＜研修に当たっての考え方＞

乳幼児の疾病の予防及び感染の防止への対応について理解するため、乳幼児の健康観察のポイント、健康診断、衛生管理、薬の管理等、より具体的な対応について学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

＜科目＞

⑤ 小児保健Ⅱ（講義・60分）

＜目的＞

1. 子どもに多い症状・病気を学び、その対応について理解する。
2. 小児に多い事故を学び、その予防と対応について理解する。
3. 異物除去法、心肺蘇生法を学び、緊急時の対応について理解する。

＜内容＞

1. 子どもに多い症例とその対応  
子どもに多い症状（発熱、けいれん、腹痛・嘔吐・下痢、脱水）とこの対応方法について理解する。
2. 子どもに多い病気（SIDS等を含む）とその対応  
子どもに多い病気（具体的な感染症とその特徴）やその対応、アレルギー（特徴と対処方法）について理解する。  
(1) 主な感染症とその予防
  - 1) 感染の基本
  - 2) 流行性疾患（予防接種のあるもの）
  - 3) 予防接種のない感染症
  - 4) 登園（保育）許可について
  - 5) 感染予防  
(2) アレルギー（アナフィラキシー、食物アレルギー、気管支喘息）について  
  
※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「保育所における感染症対策ガイドライン」を周知する。
3. 事故予防と対応  
子どもに多い事故（転倒・転落、誤飲・誤嚥、やけど、溺水等）、事故予防、救急処置の方法について理解する。  
(1) 子どもに多い事故  
(2) 事故予防と対応  
(3) 救急処理（異物除去法、一次救命処置）

＜研修に当たっての考え方＞

子どもに多い病気の予防とその対応について理解するため、乳幼児に多い感染症・アレルギーの症状や事故とその対応方法について学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

＜科目＞

⑥ 心肺蘇生法（実技・１２０分）

＜目的＞

- １．乳幼児を対象とした救急救命が行えるように、その技術を身につける。

＜内容＞

- １．心肺蘇生法、ＡＥＤ、異物除去法等

乳幼児に対応した心肺蘇生法の実技研修となるよう、講習実施機関等と事前に講習内容について調整するとともに、参加人数が多すぎるなどにより、見学だけの科目にならないよう配慮が必要。

＜研修に当たっての考え方＞

乳幼児を対象とした救急救命を行うことができるようその方法を習得するため、乳児、幼児人形を使用した救命救急の実技講習となるようにするとともに、必ず参加者が実技訓練をできるように、参加者数に対する人形、ＡＥＤの数や講師数に配慮することにより、具体的な心肺蘇生法、異物除去法等の救急救命の技術について学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の実際を理解するための科目】

＜科目＞

⑦ 地域保育の環境整備（講義・60分）

＜目的＞

1. 保育環境の整備にあたり、基本的な考え方と配慮事項について理解する。
2. 保育を行うために作られた場所ではないところを保育の場として利用する上での工夫や配慮について理解する。
3. 保育に必要な設備・備品とその配置について、具体的事例およびチェックポイントを示し、自己点検を行えるようにする。

＜内容＞

1. 保育環境を整える前に  
「家庭的保育等に関する設備及び運営に関する基準」（平成26年厚生労働省令第61号）にある基準や保育環境に関する基本的な考え方を理解する。  
(1) 「家庭的保育等に関する設備及び運営に関する基準」等の規定について  
(2) 保育に必要な環境の構成要素  
(3) 保育環境に関する留意点  
(4) 保育者の居宅で保育を行う場合
2. 保育に必要な環境とは  
子どもを保育するにあたり、安全性が保障されており、子どもにとって1日を居心地の良く過ごせるために必要な環境について理解する。  
(1) 安全に、安心して生活できること  
1) 子どもの発達と事故  
2) 事故を未然に防ぐための環境整備  
①進入防止、②転倒などによる事故防止、③ドアへの挟まれ防止、④乗り越え（転落）防止、  
⑤物の取り出しによる事故防止、危険物取り出し防止、⑥落下や家具の転倒防止、⑦誤飲防止、⑧溺水防止  
3) 居心地のよい環境づくり  
(2) 日常的なケアを行う  
(3) 子どもの豊かな遊びを保障する  
(4) 効率的な空間の利用  
(5) 清潔を保つ ― 衛生管理  
(6) 保育環境を整える際に検討すべきこと
3. 環境のチェックポイント  
具体的に必要となる設備や備品に関するチェックポイントについて理解する。

＜研修に当たっての考え方＞

子どもにとって居心地のよい保育環境、保育者の居宅で行う家庭的保育における保育環境整備における留意点について理解するため、保育環境整備に当たっての基本的考え方、子どもが安全に安心して過ごすことができるために必要となる環境、このために必要となる設備や備品とこの配置について具体的な事例及びチェックポイントについて学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の実際を理解するための科目】

＜科目＞

⑧ 安全の確保とリスクマネジメント（講義・60分）

＜目的＞

1. 保育環境上起こりうる危険について学び、事故を未然に防ぐための予防策や安全確保の留意点について理解する。
2. 万一事故が起こった場合の対応や報告について理解する。

＜内容＞

1. 子どもの事故  
発達段階に応じて子どもに起こりやすい事故の内容が異なっていることについて理解する。
2. 子どもの事故の予防 保育上の留意点  
子どもの事故について、具体的な点検事項を確認し、事故防止の方法について理解する。
  - (1) 毎日の点検
    - 1) 健康観察（視診）
    - 2) 子どもの受け渡し
    - 3) 保育室内での事故防止
    - 4) 散歩
    - 5) 戸外での活動
    - 6) 不審者対応
  - (2) 定期的な点検
    - 1) 保育室内での事故防止
    - 2) 散歩
    - 3) 火事・地震
    - 4) いざという時の応援
3. 緊急時の連絡・対策・対応  
緊急時に備えて連絡先や連絡手段の確認を行うこと、定期的な避難訓練を実施すること、事故後の報告などについて予め準備することが必要な内容について理解する。
  - (1) 連絡網の準備
  - (2) 避難訓練の実施
  - (3) 災害時・事件への対策・対応
    - 1) 保育室内での事故
    - 2) 散歩中の交通事故
    - 3) 不審者侵入
    - 4) 保育中の地震
    - 5) 保育中の火事
  - (4) 事故後の報告
4. リスクマネジメントと賠償責任  
万一、事故が起こった場合の適切な対応と賠償責任保険への加入など、リスクマネジメントの必要性について理解する。
  - (1) リスクマネジメントとは
  - (2) 保育中の事故と法的責任

＜研修に当たっての考え方＞

保育環境上起こりうる事故の予防策や安全確保における留意点について理解するため、事故防止のための点検事項の確認、緊急時の対応のために予め準備することが必要な事項、事故に対するリスクマネジメントの必要性について学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の実際を理解するための科目】

＜科目＞

⑨ 保育者の職業倫理と配慮事項（講義・演習・90分）

＜目的＞

1. 保育者としての職業倫理について理解する。
2. 保育者の自己管理について理解する。
3. 地域住民との関係づくりについて理解する。（家庭的保育における家庭的保育者の家族との関係にも留意する。）
4. 保育所や様々な保育関係者との関係づくり、行政との関係などについて理解する。
5. 児童虐待が疑われた場合の保育者としての対応について理解する。

＜内容＞

1. 保育者の職業倫理  
「全国保育士会倫理綱領」を参考にしながら、保育者としての職業倫理について理解する。
2. 保育者の自己管理  
質の高い保育を行うために、生活のリズムを整え、食事・睡眠・運動・ストレスマネジメントなど健康管理を心がけること、研修会への参加などを通して人間性や保育の質の向上を図ることの必要性について理解する。  
(1) 健康面について  
(2) 研鑽面について
3. 地域等との関係  
地域住民の理解と協力の必要性和、地域住民との関係づくりについて理解する。また、家庭的保育における家庭的保育者の家族との協力関係について理解する。
4. 保育所や様々な保育関係者との関係  
保育所等の連携施設と連携することの意義、他の保育関係者との交流の必要性について理解する。  
(1) 連携施設との関係  
(2) 様々な保育関係者との関係
5. 行政との関係  
行政との協力関係の構築の必要性について理解する。
6. 地域型保育の保育者の役割の検討（演習）  
地域型保育に従事する保育者はどういう役割を果たすべきか、KJ法を用いて、グループで定義づくりをする。

＜研修に当たっての考え方＞

保育者として必要となる基本姿勢や果たすべき役割について理解するため、保育者としての職業倫理、自己管理の必要性、地域や周辺の保育所等との関係、行政との協力関係の必要性について学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：地域保育の実際を理解するための科目】

＜科目＞

⑩ 特別に配慮を要する子どもへの対応（0～2歳児）（講義・90分）

＜目的＞

1. 0～2歳の気になる行動をどのように考え、どう関わっていけばよいかを行動特徴の把握などを通して理解する。
2. 特別に配慮を要する子どもへの対応における保育者の役割について理解する。  
※ 発達の遅れが疑われる場合、保護者の思いを踏まえた上での対応の必要性について理解する。（専門機関との連携を含む。）
3. 遊びを通して、子どもの発達を促す方法について理解する。

＜内容＞

1. 気になる行動  
保育者が気になる「子どもの行動」とはどういうものか、思い起こす。
2. 気になる行動をする子どもの行動特徴  
特別に配慮を要する子どもの気になる行動の特徴、子どもが気持ちを訴える際の具体的な表現の仕方について理解する。  
(1) 行動特徴  
(2) 子どもの心の訴え方
3. 気になる行動への対応の考え方  
保育者が気になる行動に対して行う対応によって、子どもの発達に影響することについて理解する。
4. 気になる行動の原因とその対応  
気になる行動には様々な原因が考えられることについて理解し、適切な対応について理解する。  
(1) 原因  
(2) 障害とその対応  
(3) 環境要因とその対応
5. 保育者の役割  
子どもの気になる行動に対して、保育者がとるべき行動、モデルとしての役割について理解する。  
(1) 発達課題達成のための援助者  
(2) 行動モデルとしての保育者…親子にかかわる大人として  
(3) 楽しさを共有する保育者
6. 遊びを通して、子どもの発達を促す方法  
日本に伝承されてきたあやし方や遊びなどによるコミュニケーションを学び、子どもを楽しませながら心身を育てる効果があることについて理解する。

＜研修に当たっての考え方＞

0～2歳児の気になる行動どのように受け止め、どう関わっていけばよいかを理解するため、特に配慮を要する子どもの行動の事例、特徴、気になる行動への対応の方法、保育者としての役割について学ぶものとする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：研修を進める上で必要な科目】

＜科目＞

⑪ グループ討議（演習・90分）

＜目的＞

1. 研修参加者が討議のテーマにそって話し合うための方法やマナーについて理解する。
2. テーマについて、自分の意見を述べたり、他の参加者の意見を聞く相互作用を通して、考えをまとめ、問題点を整理し、解決方法を検討する。
3. 今後学びたい内容あるいは助言者に質問したいことなどを、グループ内で話し合う。
4. 研修で学んだこと等についてグループ討議を行い、理解を深める。

＜内容＞

1. 討議の目的  
グループ討議により、地域型保育コースで行う保育への理解を深め、不安や問題点について話し合い、その解決策を見いだすというグループ討議の目的を理解する。
2. 討議の原則  
グループ討議を行う際には、マナーを守って行う必要があることについて理解する。
3. 討議の効果  
グループ討議により問題整理や情報収集・提供などの効果があることについて理解する。
4. 討議のすすめ方  
グループ討議の進め方（流れ）とマナーについて理解する。
  - （1）自己紹介
  - （2）司会係と記録係、全体討議での発表係を選ぶ
  - （3）個人の考えの明確化
  - （4）個人カードの発表
  - （5）問題点のグルーピング
  - （6）討議課題の決定
  - （7）解決策の討議
  - （8）記録
  - （9）まとめ
  - （10）全体討議での発表
5. グループ討議（演習）  
実際にグループ討議を行い、グループ討議の進め方、効果について講義で学んだ内容についての理解を深める。

＜研修に当たっての考え方＞

グループ討議の方法を学び、実際にグループ討議を行うことにより、講義や演習により学んだ内容について、理解を深める機会とする。

## 地域保育コース＜共通科目＞シラバス

【研修の構造：自治体の制度や地域の保育事情等を理解するための科目】

＜科目＞

⑫ 実施自治体の制度について（任意）（講義・60～90分）

＜目的＞

- 実施自治体の保育関係施策や関係機関について理解する。
- ※ 一時預かり事業を含めた地域子ども・子育て支援事業について理解する。

＜内容＞

1. 関係機関
  2. 地域資源
- ※ 研修が実施される地域にある関係機関や保育資源について説明し、研修終了後の従事先についてイメージを持ちながら研修を受講できるようにする。
  - ※ 一時預かり事業を含めた地域資源についても情報提供する。

＜研修に当たっての考え方＞

地域の保育資源を学び、この研修を受講することにより、どのような保育現場に従事できるかを理解できるようにする。  
また、一時預かり事業については、地域型保育の分類の研修を受講することによって従事可能となるが、実際に一時預かり事業に従事する際には、一時預かり事業の分類の研修を受講することが適当であることを理解する。

- ※ この科目を行うときは、基本的には自治体の方が講師となる。

## 地域保育コース＜選択科目：地域型保育＞シラバス

### ＜科目＞

#### ① 地域型保育の概要（講義・60分）

### ＜目的＞

1. 地域型保育の各事業の概要や位置づけについて理解する。
2. 地域型保育の特徴を学び、保育所保育との共通点、相違点について理解する。
3. 規模の小さい地域型保育の意義及びリスクについて学び、リスクを回避するための課題について理解する。  
（注）一時預かり事業の研修受講を促す。

### ＜内容＞

#### 1. 地域型保育の事業概要

子ども・子育て支援新制度の概要を学び、地域型保育事業の制度について理解する。

（注）研修を修了した者は、一時預かり事業に従事が可能であるが、実際に一時預かり事業に従事する際には、一時預かり事業の分類の研修を受講することが望ましい旨を説明。

##### （1）子ども・子育て支援新制度の概要

- 1) 保育所の状況
- 2) 子ども・子育て支援新制度の目的
- 3) 子ども・子育て支援新制度の仕組み

##### （2）地域型保育事業の概要

- 1) 事業類型

#### 2. 地域型保育の特徴

地域型保育の特徴、意義、連携施設の役割について理解する。

- （1）地域型保育の定義
- （2）地域型保育の特徴
- （3）地域型保育の理念
- （4）連携施設の役割

- 1) 集団保育の経験
- 2) 情報提供・相談支援
- 3) 代替保育
- 4) 満3歳以上の保育の受け入れ

##### （5）地域型保育の意義

- 1) 家庭的な環境での保育
- 2) 小集団を対象とするきめ細やかな保育
- 3) 同じ保育者が対応
- 4) 子どもの生活リズムの尊重
- 5) 家庭生活から集団保育に移行する間のきょうだい体験
- 6) 保護者への緊密な子育て支援
- 7) 地域の子育て支援

#### 3. 地域型保育のリスクを回避するための課題

少人数であるため、密室性が高くなることによるリスクを回避するために必要な対応について理解する。

- （1）開かれた保育
- （2）チームワークで行う保育
- （3）さまざまな地域資源の活用
- （4）自己研鑽と健康管理
- （5）保育ネットワークの活用

### ＜研修に当たっての考え方＞

地域型保育事業の概要を理解するため、研修終了後に従事可能となる事業の特徴に、地域型保育に生じるリスクを回避するための課題について学ぶ。

## 地域保育コース＜選択科目：地域型保育＞シラバス

### ＜科目＞

#### ② 地域型保育の保育内容（講義・演習・１２０分）

### ＜目的＞

1. 地域型保育における基本的な１日の流れや保育内容について理解する。
2. 少人数の異年齢児を保育する際の方法、工夫、留意事項などについて理解する。
3. 新しく子どもを受け入れる際の留意点について理解する。
4. 計画や記録の必要性を学び、子どもの育ちの見通しをもって保育することの重要性について理解する。

### ＜内容＞

#### 1. 地域型保育における保育内容

地域型保育で行う保育の特徴、保育に当たっての基本的な考え方、１日の流れについて理解する。

- (1) 地域型保育の特徴
- (2) 地域型保育の基本方針
- (3) 地域型保育の１日

#### 2. 地域型保育の１日の流れ

子どもを迎え入れる準備から、帰宅までの１日の流れの中で留意する事項についてを理解する。

- (1) 子どもを迎え入れるまでの準備
- (2) 子どもの登園・受入
- (3) 自由遊び
- (4) おやつ・水分補給
- (5) 散歩・外遊び
- (6) 手洗い・うがい
- (7) 昼食
- (8) 歯磨き
- (9) 午睡
- (10) 目覚め・検温
- (11) おやつ
- (12) 自由遊びまたは散歩
- (13) 帰宅の準備
- (14) 保育終了後

#### 3. 異年齢保育

様々な年齢の子どもを同時に保育する場合の留意点について理解する。

- (1) それぞれの発達過程の特徴
- (2) 異年齢保育の遊びの工夫
- (3) 異年齢保育による効果

#### 4. 新しく子どもを受け入れる際の留意点

新しく子どもを受け入れる際に行うならし保育、発達段階に応じて必要となる配慮事項について理解する。

- (1) ならし保育の進め方
- (2) 0歳児の配慮事項
- (3) 1. 2歳児の配慮事項
- (4) ならし保育中の在園児の保育

#### 5. 地域の社会資源の活用

保育所などの連携施設や地域にある様々な資源を活用し、開かれた保育と保育の質の向上を図ることについて理解する。

- (1) 連携施設の活用
- (2) 地域資源の活用

#### 6. 保育の計画と記録

子どもをより深く理解し、子どもの育ちの見通しを持つこと、四季を感じる保育を行うこと、自らの実践を振り返るために

計画や記録が重要であることを理解する。また、連絡帳、保育日誌、健康観察記録、年間行事等の記録などの書き方について理解する。

- (1) 記録の種類
- (2) 連絡帳の書き方

#### 7. 保育の体制

複数の保育者で行う保育における保育者の役割分担、チームワークの必要性、組織としての責任体制について理解する。

- (1) 家庭的保育における保育補助者の役割
- (2) 複数保育体制のチームワーク

\*講義の合間に、遊び、手作りおもちゃ、グループ討議などを入れる。

### ＜研修に当たっての考え方＞

地域型保育で行う保育内容の特徴を理解するため、１日の保育の流れ、異年齢児で行う保育の特徴、新しく子どもを受け入れる場合の配慮事項、計画や記録の重要性等について学ぶ。

## 地域保育コース＜選択科目：地域型保育＞シラバス

### ＜科目＞

#### ③ 地域型保育の運営（講義・60分）

### ＜目的＞

1. 設備及び運営の基準の内容について理解する。
2. 情報提供の方法、受託前の利用者との面接、記録や報告の管理などについて理解する。

### ＜内容＞

#### 1. 設備及び運営の基準の遵守

地域型保育に関する設備及び運営の基準（「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」（平成 26 年厚生労働省令第 61 号）、「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準」（平成 26 年内閣府令第 39 号）に規定されている内容について理解する。

#### 2. 情報提供

利用者が適切に選択することができ、地域住民の理解と協力を得ることができるよう情報提供が必要であること、情報提供の方法、個人情報への配慮の重要性について理解する。

##### （1）情報提供の目的

##### （2）さまざまな情報提供

- 1) 行政による情報提供
- 2) 関係団体等による情報提供
- 3) 事業者による情報提供

##### （3）情報の種類

##### （4）個人情報への配慮

#### 3. 受託までの流れ

子どもの受入までの流れを確認し、受入に関する留意事項について理解する。

##### （1）問い合わせへの対応

##### （2）見学の受け入れ

##### （3）保護者との面接

- 1) 子どもの状態について
- 2) 保育について

##### （4）保育を始めるにあたって

#### 4. 地域型保育の運営上必要な記録と報告

運営上記録することの必要性、記録の種類について理解する。

### ＜研修に当たっての考え方＞

地域型保育の運営に必要な内容について理解するため、設備及び運営の基準において遵守すべき事項、情報提供の必要性とその方法、子どもの受入までの流れ、運営上の必要な記録や報告について学ぶ。

## 地域保育コース＜選択科目：地域型保育＞シラバス

### ＜科目＞

#### ④ 地域型保育における保護者への対応（講義・演習・90分）

### ＜目的＞

1. 保護者と協力して子どもの発達を支えとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を学び、このために必要な知識と技術について理解する。
2. 地域型保育における保護者への対応において、保護者との信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解する。

### ＜内容＞

1. 保護者との関わりと対応  
子育て支援として行う保護者支援の必要性、保護者支援の際の視点について理解する。  
(1) 保育者に求められる役割
  - 1) 子育て支援の必要性
  - 2) ソーシャルワーク的機能の必要性(2) 地域型保育における保護者への対応
  - 1) 保護者の理解と協力
  - 2) 保護者への個別支援と対応
  - 3) 保護者相互の協力・連携
  - 4) 地域資源との連携・地域交流の活用
2. 保護者への対応の基本  
「保育所保育指針」の第6章に掲げられている「保育所における保護者に対する支援の基本」の7つの事項について理解する。
3. 子育て支援における保護者への相談・助言の原則  
望ましい対応をするため、保護者への相談・助言における原則を身につけることの必要性について学ぶ。  
(1) 傾聴・受容・共感的理解  
(2) 利用者・相談者のありのままの感情表出の促進  
(3) 自らの感情のコントロール  
(4) 1人ひとりの個別性の尊重  
(5) 非審判的態度  
(6) 利用者の自己決定の尊重  
(7) 保護者のエンパワメント  
(8) 秘密保持
4. 保護者への対応 ～事例を通して考える～  
具体的な事例に基づき、保護者への対応の方法について検討し、理解を深める（演習）。

### ＜研修に当たっての考え方＞

地域型保育における保護者への対応について理解するため、保育者に求められる保護者支援の役割、保護者への対応の基本姿勢、保護者へ相談・助言をする場合の留意事項について学ぶ。また、具体的な事例に基づき、保育者がとるべき保護者への対応方法を検討し、保護者対応への理解を深める。

## 地域保育コース＜選択科目：地域型保育＞シラバス

### ＜科目＞

#### ⑤ 見学実習オリエンテーション（演習・30分～60分）

### ＜目的＞

1. 見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。
2. 見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。

### ＜内容＞

#### 1. 見学実習の目的

講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保に関する事項などについて、実際に保育現場を見学することで具体的なイメージを持ち理解を深めるとともに、今後実践する保育において具体的に参考とするという見学実習の目的について理解する。

#### 2. 見学実習のポイントと配慮事項

見学先の事業者と子どもに対する配慮事項、見学する際に確認すべき具体的なポイントについて理解する。また、見学実習に当たって、感染症に罹患させないよう留意するとともに、見学先の子どもや保育者に関する個人情報等の取扱いに留意することを理解する。

- (1) 見学先と子どもたちへの配慮
- (2) 環境～安全で安心できる環境づくり
- (3) 一日の生活の流れと保育者・子どもの様子
- (4) 異年齢・小集団保育を生かす遊び
- (5) 地域資源の利用
- (6) 保護者とのかかわり
- (7) 複数の保育者体制、保育者間の役割分担、引継ぎ等
- (8) 保育者の保育観や保育方針
- (9) 見学の記録

※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。

### ＜研修に当たっての考え方＞

見学実習において留意すべき事項について予め理解するため、見学実習の目的、見学先とその子どもへの配慮事項、見学の際に確認するポイントについて学ぶこととする。

## 地域保育コース＜選択科目：地域型保育＞シラバス

### ＜科目＞

#### ⑥ 見学実習（実習・2日以上）

※講義・演習に代える場合：（講義・演習：実習と同程度の内容を担保（1日以上））

### ＜目的＞

1. 地域型保育の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。
2. 保育に取り組むに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。（家庭的保育は、家庭的保育者個人の自宅であり、異なる地域の環境の中でそれぞれ独自の工夫をして、保育を展開していることに留意する。）
3. （見学実習を講義・演習に代える場合）子どものおむつ交換、食事の介助など、子どもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。

### ＜内容＞

#### 1日目 保育の1日の流れを見る

実践する保育について、受入から帰宅まで1日の流れを実際に観察し、理解する。

#### 2日目 保育の記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ

実際の記録や計画と書類を見て、どのような記録をするのかを理解する。

※ 従事を予定している事業を見学先とすることが望ましいが、難しい場合には、認可保育所での0～2歳児の保育に関する見学実習も可能とする。

※ 可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。この場合に、子どものおむつ交換や食事の介助等を学び、ミルクやほ乳瓶等の実物を知る機会を設けることが必要。

※見学実習を行う際には、研修実施機関が見学実習先との連絡調整等を行う。

### ＜研修に当たっての考え方＞

保育者として実践する保育の具体的なイメージを理解するため、実際の保育の場面を見学し、1日の流れ、記録や計画等の書類、保護者対応の実際等について学ぶ。

## 地域保育コース＜選択科目：一時預かり事業＞シラバス

### ＜科目＞

#### ① 一時預かり事業の概要（講義・60分）

### ＜目的＞

1. 一時預かり事業の子育て支援としての意義、継続的な保育との相違について理解する。
2. 一時預かり事業の特徴を学び、従事者として、子どもや保護者との関わり方における基本姿勢について理解する。

### ＜内容＞

1. 一時預かり事業とは  
一時預かり事業が創設された背景と子ども・子育て支援新制度における事業のあり方などについて理解する。
  - (1) 一時保育事業の創設の背景
  - (2) 子育て支援事業の法定化
  - (3) 一時預かり事業の展開
  - (4) 子ども・子育て支援新制度における一時預かり事業
2. 一時預かり事業の意義  
一時預かり事業の目的や役割について理解する。
  - (1) 一時預かり事業の目的
  - (2) 一時預かり事業の機能・役割
  - (3) 一時預かり事業に期待される役割
3. 一時預かり事業の特徴  
一時預かり事業を利用する子どもの特徴や保護者の利用形態などについて理解する。
  - (1) 一時預かり事業を利用する子どもの特徴
  - (2) 一時預かり事業を利用する保護者の特徴
  - (3) 子どもや保護者との関係性
4. 一時預かり事業従事者の基本姿勢  
一時預かり事業に従事する際に必要となる基本的な姿勢について理解する。
  - (1) 一時預かり事業の従事者に求められる役割

### ＜研修に当たっての考え方＞

一時預かり事業の概要を理解するため、一時預かり事業の意義、特徴、従事する際に必要となる保育者の基本姿勢について学ぶ。

## 地域保育コース＜選択科目：一時預かり事業＞シラバス

### ＜科目＞

#### ② 一時預かり事業の保育内容（講義・演習・１２０分）

### ＜目的＞

- １．初めて会う子どもとの信頼関係を形成する具体的な関わり方について理解する。
- ２．一時預かり事業は子どもの家庭生活の延長にあるため、一人ひとりの状態に対応し、子どもが安心して過ごせるようにすることについて理解する。
- ３．子どもの不安を安心に変える具体的な関わり方について理解する。

### ＜内容＞

- １．初めて会う子どもとの関係づくり  
毎日利用する子どもが異なる一時預かり事業において子どもとの関係作りの重要性、不適切な対応をとらないための配慮事項について理解する。  
(１) 関係を作る  
(２) 不安を安心に変える心遣い  
(３) 子どもに対して行いがちな不適切な対応（人権の侵害）
- ２．一人ひとりの発達に応じた生活・遊びの援助  
初めて一時預かり事業を利用する子どもは、家庭とは異なる様子を見せることが多いため、一人ひとりの状態や特徴を把握し、発達段階に応じた生活の援助を行うことについて理解する。  
(１) 一時預かり事業における配慮事項  
①一時預かり事業を利用する子どもの特徴  
②一時預かり事業を利用する子どもへの配慮事項  
(２) 年齢別の保育のポイント
- ３．子どもが安心して過ごせる環境づくり  
一時預かり事業を利用する子どもが安心して過ごせるための環境作りについて理解する。  
(１) 安心感のある環境  
①親と離れることの不安 ②空間の表情を作る ③家庭的な雰囲気づくり  
(２) 遊びが楽しめる環境  
①物や人に影響を受けやすい乳幼児 ②おもちゃをきっかけとした居場所作り  
③体全体を使った動きの大きな遊び ④異年齢の子どもが集まる場合の工夫  
(３) 安全な環境  
①子ども同士のトラブルが起こりやすい環境  
②視覚・聴覚への刺激を抑えることにより、落ち着いて遊べる環境

※講義の合間に、遊びの事例、演習などを入れる。一時預かり事業に適したおもちゃや絵本などを紹介する。

### ＜研修に当たっての考え方＞

一時預かり事業を利用する子どもが安心して過ごせる環境を理解するため、初めて会う子どもとの関係作り、発達に応じた生活援助や遊びの工夫、子どもの心身への負担に配慮した環境作りについて学ぶ。

## 地域保育コース＜選択科目：一時預かり事業＞シラバス

### ＜科目＞

#### ③ 一時預かり事業の運営（講義・60分）

### ＜目的＞

1. 一時預かり事業の業務の流れについて理解する。
2. 記録や保護者への報告の記載の仕方、保護者のプライバシーの遵守、職員間の連携の必要性について理解する。

### ＜内容＞

1. 一時預かり事業の業務の流れ  
一時預かり事業の運営に必要となる業務の流れと留意事項について理解する。
  - (1) 利用者ニーズの把握
  - (2) 利用手続き
  - (4) 利用当日の対応
2. 情報提供、受付、登録  
一時預かり事業の利用者や地域住民に対する情報提供、一時預かり事業の体験の機会、利用に当たり事前説明する際に留意する事項について理解する。
  - (1) 利用促進を図るための情報提供や体験の機会
  - (2) 利用に当たっての説明
3. 記録、保護者への報告  
一時預かり事業の運営にあたり記録の必要性、保護者との信頼関係を築くなど保護者に対する報告の意義について理解する。
  - (1) 記録の意義
  - (2) 保護者への報告の意義
4. 職場倫理・チームワーク、職員間の共通理解  
一時預かり事業に従事する保育者の職場倫理、保育者間の情報の共有など、事業を円滑に運営するために必要な留意事項について理解する。
  - (1) 職場倫理
  - (2) 適切な引き継ぎと情報の共有

### ＜研修に当たっての考え方＞

一時預かり事業の運営に当たり必要となる留意事項について理解するため、業務の流れ、情報提供の必要性、事業の記録、保護者への報告の意義、職場内の情報共有の重要性について学ぶ。

## 地域保育コース＜選択科目：一時預かり事業＞シラバス

### ＜科目＞

#### ④ 一時預かり事業における保護者への対応（講義・演習・90分）

### ＜目的＞

1. 保護者と協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を学び、このために必要な知識と技術について理解する。
2. 一時預かり事業における保護者への対応において、信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解する。

### ＜内容＞

1. 保護者との関わりと対応  
一時預かり事業を利用する保護者の状況、保護者支援として行われる一時預かり事業の役割について理解する。  
(1) 乳幼児を育てる家族の状況  
(2) 「保護者支援」が必要となる社会的背景  
(3) 保育の専門性を生かした保護者支援
2. 保護者への対応の基本  
保育所保育指針を参考に保護者対応の基本、一時預かり事業の保育者について理解する。  
(1) 子どもの最善の利益  
(2) 保護者と共に子どもの成長を喜びあう  
～「共感」を超えた「同感」～  
(3) 保護者の養育力の向上に資する
3. 子育て支援における保護者への相談・助言の原則  
保護者支援の役割を果たす一時預かり事業の保育者に求められる基本姿勢、具体的な場面について理解する。  
(1) 保護者支援における基本姿勢  
1) 傾聴・受容・共感的理解  
2) 利用者の自己決定の尊重  
3) 信頼関係の構築  
(2) 一時預かり事業における保護者支援の実際  
1) 一時預かり事業における保護者支援の特性と留意点  
2) 一時預かり事業における保護者支援の展開場面と手段
4. 保護者への対応 ～事例を通して考える～  
具体的な事例に基づき、保護者への対応の方法について検討し、理解を深める（演習）。

### ＜研修に当たっての考え方＞

一時預かり事業における保護者への対応について理解するため、保育者に求められる保護者支援の役割、保護者への対応の基本姿勢、保護者へ相談・助言をする場合の留意事項について学ぶ。また、具体的な事例に基づき、保育者がとるべき保護者への対応方法を検討し、保護者対応への理解を深める。

## 地域保育コース＜選択科目：一時預かり事業＞シラバス

### ＜科目＞

#### ⑤ 見学実習オリエンテーション（演習・３０～６０分）

### ＜目的＞

- 見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。
- 見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。

### ＜内容＞

#### １．見学実習の目的

講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に一時預かりの現場を見学することで具体的なイメージを持ち理解を深めるとともに、今後実践する保育において具体的に参考とするという見学実習の目的について理解する。

#### ２．見学実習のポイントと配慮事項

見学先の事業者と子どもに対する配慮事項、見学する際に確認すべき具体的なポイントについて理解する。また、見学実習に当たって、感染症に罹患させないよう留意するとともに、見学先の子どもや保育者に関する個人情報等の取扱いに留意することを理解する。

- （１）見学先と子どもたちへの配慮
- （２）環境～安全で安心できる環境づくり
- （３）一日の生活の流れと保育者・子どもの様子
- （４）異年齢・小集団保育を生かす遊び
- （５）地域資源の利用
- （６）保護者とのかかわり
- （７）家庭的保育における複数の保育体制、保育補助者の役割
- （８）保育者の保育観や保育方針
- （９）見学の記録

※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。

### ＜研修に当たっての考え方＞

見学実習において留意すべき事項について予め理解するため、見学実習の目的、見学先とその子どもへの配慮事項、見学の際に確認するポイントについて学ぶこととする。

## 地域保育コース＜選択科目：一時預かり事業＞シラバス

### ＜科目＞

#### ⑥ 見学実習（実習・2日以上）

※講義・演習に代える場合：（講義・演習：実習と同程度の内容を担保（1日以上））

### ＜目的＞

1. 一時預かり事業の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。
2. 保育に取り組むに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。
3. （見学実習を講義・演習に代える場合）子どものおむつ交換、食事の介助など、子どもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。

### ＜内容＞

#### 1日目 保育の1日の流れを見る

実践する保育について、受入から帰宅まで1日の流れを実際に観察し、理解する。

#### 2日目 保育の記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ

実際の記録や計画と書類を見て、どのような記録をするのかを理解する。

※ 従事を予定している事業を見学先とすることが望ましいが、難しい場合には、認可保育所での保育に関する見学実習も可能とする。

※ 可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。この場合に、子どものおむつ交換や食事の介助等を学び、ミルクやほ乳瓶等の実物を知る機会を設けることが必要。

※見学実習を行う際には、研修実施機関が見学実習先との連絡調整等を行う。

### ＜研修に当たっての考え方＞

保育者として実践する保育の具体的なイメージを理解するため、実際の保育の場面を見学し、1日の流れ、記録や計画等の書類、保護者対応の実際等について学ぶ。

令和7年度子ども・子育て支援調査研究事業  
「乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の従事者への研修に関する調査研究」  
三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング

子育て支援員研修(地域保育コース)  
選択科目 こども誰でも通園制度(乳児等通園支援事業)

## シラバス

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1. こども誰でも通園制度の概要.....          | 2 |
| 2. こども誰でも通園制度の保育内容.....        | 3 |
| 3. こども誰でも通園制度の運営 .....         | 5 |
| 4. こども誰でも通園制度における保護者への対応 ..... | 6 |
| 5. 見学実習オリエンテーション .....         | 8 |
| 6. 見学実習.....                   | 9 |

## 1. こども誰でも通園制度の概要

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ＜科目＞<br>① こども誰でも通園制度の概要（講義・60分）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ＜目的＞<br>1. こども誰でも通園制度の事業概要や制度上の位置づけを把握する。<br>2. こども誰でも通園制度が創設された背景を学び、こども誰でも通園制度の意義を理解する。<br>3. こども誰でも通園制度に従事する保育者としての、こどもや保護者との関わり方における基本姿勢について理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ＜内容＞<br>1. こども誰でも通園制度とは<br>こども誰でも通園制度の概要と制度上の位置づけを理解する。<br>(1) こども誰でも通園制度の目的と概要<br>(2) 子ども・子育て支援制度における位置づけ<br><br>2. こども誰でも通園制度の意義<br>こども誰でも通園制度が創設された背景を知り、こども誰でも通園制度の意義を理解する。<br>(1) 基本的な考え方<br>(2) こどもの成長の観点からの意義<br>(3) 保護者にとっての意義<br>(4) 保育者にとっての意義<br>(5) 事業者にとっての意義<br>(6) 制度の意義を実現するための自治体の役割<br><br>3. 事業を実施する上での留意事項<br>事業を実施する上での留意事項を理解する。<br>(1) 利用の流れ<br>(2) 安全の確保<br>(3) 在園児への影響、在園児の保護者の理解<br><br>4. 全てのこどもの育ちを応援し、全ての子育て家庭に対する支援を強化するために<br>こども誰でも通園制度の目的を達成するために必要な取組について理解する。<br>(1) 全てのこどものための支援<br>(2) 要支援家庭への対応、関係機関との連携<br>(3) こどもや保護者との関わり方における基本姿勢 |
| ＜研修にあたっての考え方＞<br>こども誰でも通園制度の概要を理解するため、こども誰でも通園制度の意義、制度上の位置づけ、従事する際に必要となる保育者の基本姿勢について学ぶ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

## 2. こども誰でも通園制度の保育内容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;科目&gt;</p> <p>②こども誰でも通園制度の保育内容（講義・演習・120分）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>&lt;目的&gt;</p> <p>1. こどもの状態・状況等に応じた生活・遊びの援助について理解する。</p> <p>2. こどもが安心して過ごすことができる環境づくり、職員との関係づくりのための具体的な関わり方、配慮や工夫について理解する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>&lt;内容&gt;</p> <p>1. こどもの理解に基づく援助</p> <p>保育におけるこどもの理解の重要性と、こどもの理解に基づき豊かな遊びの環境を構成するための視点について理解する。</p> <p>（1）こどもの理解</p> <p>①こどもを理解するための視点</p> <p>②こどもの理解に基づいた計画・記録</p> <p>（2）こどもの理解に基づく計画的な環境の構成</p> <p>①この時期の育ちを支え促すために、大切にしたいこと</p> <p>②遊びを楽しめる環境</p> <p>③様々な遊びの環境</p> <p>2. 一人一人に応じた生活・遊びの援助</p> <p>一人一人の状態や特性を把握し、発達に即した援助を行うことについて理解する。</p> <p>（1）発達に即した援助のポイント</p> <p>①おおむね0歳</p> <p>②おおむね1歳</p> <p>③おおむね2歳</p> <p>（2）発達を踏まえて留意したいこと</p> <p>①こども同士の関わりについて</p> <p>②0・1・2歳の保育において注意すべき点</p> <p>3. こどもが安心して過ごせる環境づくり</p> <p>一人一人のこどもが安心して、安全に過ごせるための環境づくりについて理解する。</p> <p>（1）安心感のある環境</p> <p>①こどもの不安への対応</p> <p>②こどもにとって居心地のよい場・空間</p> <p>（2）安全な環境</p> <p>①落ち着いて遊べる環境づくりのための配慮・工夫</p> |

#### 4. こどもとの関係づくりと利用状況等を踏まえた配慮

こどもとの関係づくりの重要性、一人一人の人権を尊重した対応、利用状況等に応じた配慮について理解する。

(1) こどもとの関係づくり

(2) こどもの人権を尊重した関わり

(3) 利用状況等を踏まえた配慮（通い始め、利用形態の違い、親子通園、在園児への配慮等）

※講義内容に即した具体的な遊び例などを紹介する。

※講義内容を踏まえて、一人一人のこども及び集団の状態・状況等に応じた保育に関する演習を行う。

#### <研修にあたっての考え方>

初めて利用するこどもなど一人一人の利用状況やその時々状態などに応じて、こどもが安心して、安全に過ごし、遊びを楽しむことができるよう、こどもとの関係づくり、発達に即した生活・遊びの援助、心身の負担等に配慮した環境づくりについて学ぶ。

### 3. こども誰でも通園制度の運営

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;科目&gt;</p> <p>③こども誰でも通園制度の運営（講義・60分）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>&lt;目的&gt;</p> <p>1. こども誰でも通園制度の業務の流れについて理解する。</p> <p>2. 記録や保護者への報告の仕方、利用者のプライバシーの遵守（個人情報保護や守秘義務）、職員間の連携の必要性について理解する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>&lt;内容&gt;</p> <p>1. こども誰でも通園制度の業務の流れ</p> <p>こども誰でも通園制度の業務の流れと留意事項について理解する。</p> <p>（1）利用の流れ・業務の流れ</p> <p>（2）利用手続 ICT の活用</p> <p>（3）利用するこどもと保護者の尊重</p> <p>2. 情報提供、事前面談</p> <p>こども誰でも通園制度の対象者や地域住民等に対する情報提供、こどもや家庭に関する情報収集、保護者との事前面談の進め方や事前に伝えるべきことを理解する。</p> <p>（1）情報提供</p> <p>（2）情報収集・情報の把握</p> <p>①総合支援システムの活用</p> <p>②事前面談</p> <p>（3）利用にあたり、保護者に伝えておくべきこと</p> <p>3. 記録、保護者への報告</p> <p>こども誰でも通園制度の運営にあたり記録の必要性、保護者への報告の意義、報告内容の留意事項などを理解する。</p> <p>（1）記録の意義</p> <p>（2）保護者への報告の意義、報告内容</p> <p>4. 職場倫理、チームワーク・職員間の連携、共通理解</p> <p>こども誰でも通園制度に従事する職員の職場倫理、職員間の情報の共有など、事業を円滑に進めるために必要な留意事項について理解する。</p> <p>（1）職場倫理</p> <p>（2）チームワーク・職員間の連携</p> <p>（3）適切な引き継ぎと情報の共有</p> |
| <p>&lt;研修に当たっての考え方&gt;</p> <p>こども誰でも通園制度を実施するに当たり必要となる留意事項について理解するため、業務の流れ、情報提供の必要性、事前面談、事業の記録、保護者への報告の意義、職場内の情報共有の重要性について学ぶ。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

## 4. こども誰でも通園制度における保護者への対応

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;科目&gt;</p> <p>④こども誰でも通園制度における保護者への対応（講義・演習・90分）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>&lt;目的&gt;</p> <p>1. 子育て支援の基本を踏まえた保護者への関わり方を理解する。</p> <p>2. こども誰でも通園制度の特性を踏まえた保護者への対応のポイントや留意点を理解する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>&lt;内容&gt;</p> <p>1. 保護者への基本的な対応</p> <p>保護者が安心できる基本的な関わり方やプライバシーの保護など、支援に際しての基本姿勢について理解する。</p> <p>（1）保護者が安心できる温かな受け入れと朗らかで積極的な声掛け</p> <p>（2）傾聴する姿勢と受容的態度</p> <p>（3）保護者の意思（自己決定）を尊重する</p> <p>（4）プライバシー保護や守秘義務厳守への理解</p> <p>2. 保護者とともにこどもの育ちを支えていくための関わり</p> <p>こどもの育ちと成長に喜びを感じることができる関わり、保護者が「家族以外の人自分たちを気にかけている」と実感できる関わりについて学ぶ。</p> <p>（1）家庭でのこどもの様子、子育てについて保護者に耳を傾け、受け止める重要性</p> <p>（2）孤立や孤独・不安感を解消する関わり方</p> <p>（3）こどもの成長と子育ての楽しさが実感できる支え方</p> <p>（4）家庭の中だけでは気づかないこどもの姿や育ちの伝え方</p> <p>（5）子育てに対する喜びや自信につながるような声掛けの方法</p> <p>（6）同年代のこどもを持つ保護者同士で安心して話ができるきっかけづくり</p> <p>（7）家族以外の人自分たちを気にかけてくれていると実感できる関わり方</p> <p>3. その他の留意事項</p> <p>こども誰でも通園制度特有の対応について、その他留意事項について学ぶ。</p> <p>（1）保護者との積極的なコミュニケーションを創出するための関わり方</p> <p>（2）利用方法に応じた対応（柔軟利用の際の事業所に慣れる工夫等）</p> <p>（3）親子通園時の留意点</p> <p>（4）保護者やこどもに気になる様子が見られた場合の対応</p> <p>（5）職員間のチームワーク</p> <p>4. こども誰でも通園制度における保護者への対応（演習） ～事例を通じて考える～</p> <p>講義内容を踏まえて、こども誰でも通園制度における保護者対応を行う上での考え方や基本的な態度、留意点等について、具体的な場面を想定した事例等を通して学ぶ。</p> <p>※どのような場面や状況（利用時期、利用方法、保護者やこどもの状況など）においても共通する保護者対応の原則に基づく関わり方などを考える。</p> <p>※個別的な対応が求められる場面や状況に関する基本的な姿勢と対応について理解する。</p> |
| <p>&lt;研修にあたっての考え方&gt;</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

こども誰でも通園制度における保護者への対応の在り方を理解する。短時間の保育利用における保護者対応は、保育を通してのこどもの成長と発達を喜ぶことである。こどもの様子を保育開始前に聞き取り、保育中のこどもの様子を伝えながら子育てをともにに行っているという意識を保護者と保育者が持つことができるようになることを目指す。

気になる親子の利用があれば、職員は親子の状況を他の職員と共有し、チームで対応することを意識できることを目指す。

## 5. 見学実習オリエンテーション

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;科目&gt;</p> <p>⑤ 見学実習オリエンテーション（演習・30～60分）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>&lt;目的&gt;</p> <p>1. 見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。</p> <p>2. 見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>&lt;内容&gt;</p> <p>1. 見学実習の目的</p> <p>講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際にこども誰でも通園制度の現場を見学することで具体的なイメージを持ち理解を深めるとともに、今後実践するこども誰でも通園制度において具体的に参考とするという見学実習の目的について理解する。</p> <p>2. 見学実習のポイントと配慮事項</p> <p>見学先の事業者とこどもに対する配慮事項、見学する際に確認すべき具体的なポイントについて理解する。また、見学実習に当たって感染症に罹患させないよう留意するとともに、見学先のこどもや保育者に関する個人情報等の取扱に留意することを理解する。</p> <p>（1）見学先とこどもたちへの配慮</p> <p>（2）環境～安全で安心できる環境づくり</p> <p>（3）一日の生活の流れと保育者・こどもの様子</p> <p>（4）異年齢・小集団保育を生かす遊び</p> <p>（5）地域資源の利用</p> <p>（6）保護者との関わり</p> <p>（7）こども誰でも通園制度における保育者の体制、保育補助者の役割</p> <p>（8）記録、計画、さまざまなマニュアル、保護者へのおたより、その他の文書類</p> <p>（9）生活や遊びの援助、子育て支援の方針</p> <p>（10）見学の記録</p> <p>※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。</p> |

|                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;研修にあたっての考え方&gt;</p> <p>見学実習において留意すべき事項について予め理解するため、見学実習の目的、見学先とそのこどもへの配慮事項、見学の際に確認するポイントについて学ぶこととする。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 6. 見学実習

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;科目&gt;</p> <p>⑥見学実習（実習・2日以上）</p> <p>※講義・演習に代える場合：（講義・演習：実習と同程度の内容を担保（1日以上））</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>&lt;目的&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. こども誰でも通園制度の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。</li> <li>2. こどもとの関わりに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。</li> <li>3. （見学実習を講義・演習に代える場合）こどものおむつ交換、食事の介助など、こどもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>&lt;内容&gt;</p> <p>1日目 こども誰でも通園制度の1日の流れを見る</p> <p>実践するこども誰でも通園制度について、受入から帰宅まで1日の流れを実際に観察し、理解する。</p> <p>2日目 記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ</p> <p>実際の記録や計画と書類を見て、どのような記録をするのかを理解する。</p> <p>事前面談の機会があれば、同席し、どのような説明や質問をしているのかを理解する。</p> <p>※従事を予定している事業を見学先とすることが望ましいが、こども誰でも通園制度を実施している事業所がない地域においては、一時預かり事業所又は認可保育所での低年齢児保育による見学実習による代替も可能とする。</p> <p>※可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。この場合、こどものおむつ交換や食事の介助等を学び、ミルクやほ乳瓶等の実物を知る機会を設けることが必要。</p> <p>※見学実習を行う際には、研修実施機関が見学実習先との連絡調整等を行う。</p> |
| <p>&lt;研修にあたっての考え方&gt;</p> <p>保育者として実践するこども誰でも通園制度の具体的なイメージを理解するため、実際のこども誰でも通園制度の場面を見学し、一日の流れ、記録や計画等の書類、保護者対応の実際等について学ぶ。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |